

## 21001

## 日本語学Ⅰ

S 船所武志

## ⑩日本語学Ⅰ

〔概要〕 日本語学のさまざまな領域における現代日本語の姿とその研究史を含む研究の状況とを概観する。とくに、音声・音韻、文字、語彙、敬語を中心に詳述する。日本語学Ⅱと合わせて日本語学全般の概説となる。1 Semesterでの履修が望ましい。

〔到達目標〕 音声・音韻、文字、語彙、敬語を中心とする現代日本語の様相ならびに研究領域について理解する。

〔授業計画〕

1 日本語学と言語学	6 文字・表記②	11 待遇表現：敬語論①
2 音声・音韻①	7 文字・表記③	12 待遇表現：敬語論②
3 音声・音韻②	8 語彙・意味①	13 文法論：品詞論①
4 音声・音韻③	9 語彙・意味②	14 文法論：品詞論②
5 文字・表記①	10 語彙・意味③	15 定期試験

〔テキスト〕 鈴木一彦・林巨樹監修 『新訂 概説日本語学』（明治書店）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

## 21002

## 日本語学Ⅱ

W 船所武志

## ⑩日本語学Ⅱ

〔概要〕 日本語学Ⅰに引き続いて、現代日本語の姿と日本語学の各領域における研究状況（研究史を含む）とを概説する。冬学期は、構文論から文章論・談話分析などの言語の大きな単位を中心に扱う。さらに、方言、日本語教育にも言及する。

〔到達目標〕 文法、文章、方言を中心とする現代日本語の様相ならびに研究領域について理解する。

〔授業計画〕

1 文法：構文論①	6 文章・談話②	11 言語生活
2 文法：構文論②	7 文章・談話③	12 日本語教育①
3 文法：構文論③	8 方言①	13 日本語教育②
4 文法：構文論④	9 方言②	14 日本語研究の展望
5 文章・談話①	10 方言③	15 定期試験

〔テキスト〕 鈴木一彦・林巨樹監修 『新訂 概説日本語学』（明治書院）

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

## 21003

## 日本語史

W 船所武志

## ⑩日本語史Ⅰ

〔概要〕 奈良時代から明治時代以降に至るまでの日本語の言語変化と各時代の様相とを概観する。講義中心に授業展開するが、各時代にみられる諸特徴がなぜ出現するのか、という観点から、討論を交えて双方向の授業を行う。テキストに加えて、参考文献を併用して理解を深める。

〔到達目標〕 各時代の日本語の様相ならびにその変遷を理解することが目標となる。具体的には、音声・音韻、文字、語彙、文法、待遇表現、文章文体などに及ぶ通時的理解である。

〔授業計画〕

1 日本語史の射程について	6 鎌倉時代の日本語①	11 江戸時代の日本語②
2 奈良時代までの日本語①	7 鎌倉時代の日本語②	12 明治時代以降の日本語①
3 奈良時代までの日本語②	8 室町時代の日本語①	13 明治時代以降の日本語②
4 平安時代の日本語①	9 室町時代の日本語②	14 日本語史のまとめと展望
5 平安時代の日本語②	10 江戸時代の日本語①	15 定期試験

〔テキスト〕 沖森卓也編 『日本語史』（おうふう）

〔参考文献〕 山口仲美 『日本語の歴史』（岩波新書）ほか適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

21004

## 日本語表現論Ⅰ

S 坂田達紀

## ㊤日本語表現A

〔授業題目〕日本語表現の理論と実践（基礎）

〔概要〕まず、日本語の特色について、文法論的観点・表現論的観点・文体論的観点等、様々な観点から分析する。ついで、そうした基礎知識にもとづいて、より良い日本語表現の方法を理論的に考察する。

〔到達目標〕より高度で豊かな言語生活を営むために必要な日本語および日本語表現についての基本的な知識とスキル（技能）とを習得することを目標とする。

〔授業計画〕

- |             |             |               |
|-------------|-------------|---------------|
| 1 ことばとは何か   | 6 日本語の特色（5） | 11 敬語について     |
| 2 日本語の特色（1） | 7 「主語」について  | 12 仮名と漢字の使い分け |
| 3 日本語の特色（2） | 8 文末について    | 13 用語の選択      |
| 4 日本語の特色（3） | 9 文の接続について  | 14 文章作成       |
| 5 日本語の特色（4） | 10 句読点について  | 15 まとめ        |

〔テキスト〕吉村 稠編『新訂 日本語と表現の工夫』（双文社出版）

〔参考文献〕授業中に紹介する。

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60 %、平常の成績 40 %

21005

## 日本語表現論Ⅱ

W 早川勝廣

## ㊤日本語表現B

〔授業題目〕文章表現の解釈と創造

〔概要〕日本語表現についての基本的な知識を獲得し、文章の読み書きの技能を形成する。さまざまな文章を、目的に応じて書き分ける力を身につける。

〔到達目標〕文の叙述、文章の構成、主題の設定などの表現技法を身につけ、説得力のある文章が書ける力を養う。

〔授業計画〕

- |               |             |                  |
|---------------|-------------|------------------|
| 1 表現の工夫       | 6 文章の要約（1）  | 11 手紙の書き方        |
| 2 文レベルのレトリック  | 7 文章の要約（2）  | 12 文章作成（1）       |
| 3 文章レベルのレトリック | 8 文章の要約（3）  | 13 文章作成（2）       |
| 4 文章構成法（1）    | 9 主題の立て方    | 14 文章作成（3）       |
| 5 文章構成法（2）    | 10 原稿用紙の使い方 | 15 まとめ・テスト（定期試験） |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中にプリント配布

〔授業形態〕講義・実習・双方向授業・実際に文章を書く

〔成績評価の方法〕平常点 30 %、課題 30 %、テスト 40 %

21006

## 日本語コミュニケーション論

S 坂田達紀

## ㊤日本語表現C

〔授業題目〕日本語表現の理論と実践（応用）

〔概要〕日本語および日本語表現についての、より高度な知識とスキルを講義する。文章作成の実践に重きを置くとともに、人前でより効果的なスピーチ・プレゼンテーションを行う方法についても学ぶ。

〔到達目標〕明確で説得力のある文章が書けるようになること、および、人前で魅力的なスピーチ・プレゼンテーションができるようになることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 1 良い文章の条件（1）   | 9 文章作成（1）               |
| 2 良い文章の条件（2）   | 10 文章作成（2）              |
| 3 良い文章の条件（3）   | 11 文章作成（3）              |
| 4 文章構成法（1）     | 12 スピーチ・プレゼンテーションの方法    |
| 5 文章構成法（2）     | 13 スピーチ・プレゼンテーションの実践（1） |
| 6 文章表現のレトリック   | 14 スピーチ・プレゼンテーションの実践（2） |
| 7 主題の立て方       | 15 まとめ                  |
| 8 原稿用紙・諸記号の使い方 |                         |

〔テキスト〕吉村 稠編『新訂 日本語と表現の工夫』（双文社出版）

〔参考文献〕授業中に紹介する。

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60 %、平常の成績 40 %

21007

## 日本語文法Ⅰ（現代）

S 高橋美奈子

## ⑩文法研究Ⅰ

〔授業題目〕現代日本語文法概説

〔概要〕文法とはことばの仕組みである。具体的な言語事実を材料として、普段は意識することなく駆使している現代日本語の仕組み＝文法に注意を向け、それを分析する手法や、適切な整理の仕方を学び、考えを深めていく。

〔到達目標〕現代日本語を観察し、その根底にある文法を捉えるのに有効な考え方を学び、身につける。

〔授業計画〕

- |                |                |             |
|----------------|----------------|-------------|
| 1 Introduction | 6 「が」と「は」をめぐって | 10 時間の表現 2  |
| 2 品詞について       | 2              | 11 時間の表現 3  |
| 3 述語と補足語 1     | 7 「が」と「は」をめぐって | 12 事態の捉え方 1 |
| 4 述語と補足語 2     | 3              | 13 事態の捉え方 2 |
| 5 「が」と「は」をめぐって | 8 文法カテゴリー      | 14 事態の捉え方 3 |
| 1              | 9 時間の表現 1      | 15 定期試験     |

〔テキスト〕プリント・資料を配布する。

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕定期試験 85 %、平常点 15 %

21008

## 日本語文法Ⅱ（古典）

S 田島智子

## ⑩文法研究Ⅱ

〔授業題目〕古典文法の復習

〔概要〕古典文法を、動詞の活用という最初の段階から復習していくので、着実に知識を積み重ねることができる。また、例文で用法を確かめて、応用力も養っていく。

〔到達目標〕高校の古典文法を確実に理解し、教師として教えることができるレベルに到達する。

〔授業計画〕

- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 動詞一活用の確認                      | 9 助動詞（推量）一意味・接続・活用の確認          |
| 2 動詞一例文での応用                     | 10 助動詞（推量）一例文での応用              |
| 3 形容詞一活用の確認と例文での応用              | 11 助動詞（その他）一意味・接続・活用の確認と例文での応用 |
| 4 形容動詞一活用の確認と例文での応用             | 12 助詞一意味・接続の確認                 |
| 5 助動詞（尊敬）一意味・接続・活用の確認           | 13 助詞一例文での応用                   |
| 6 助動詞（尊敬）一例文での応用                | 14 敬語—尊敬語・謙讓語・丁寧語の確認と例文での応用    |
| 7 助動詞（過去・完了）一意味・接続・活用の確認と例文での応用 | 15 定期試験                        |
| 8 助動詞（推量）一意味・接続・活用の確認           |                                |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %

21009

## 日本文学論Ⅰ（近現代）

S 池田浩士

## ⑩日本文学論Ⅰ

〔授業題目〕戦時下日本の女性作家たち

〔概要〕1930～40年代の戦時下を生きた女性作家たちの作品と生き方を考察し、日本文学の歴史における未解明の諸問題にアプローチする。

〔到達目標〕「戦争」という現実と文学表現はどう向き合ったのかを具体的に解明することを通して、文学の課題についての意識を新たにすることを目指す。

〔授業計画〕

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1 序論—戦時下の女性作家     | 8 『女人芸術』の軌跡（1）     |
| 2 戦線のアイドル・林芙美子（1） | 9 『女人芸術』の軌跡（2）     |
| 3 戦線のアイドル・林芙美子（2） | 10 「原爆作家」の戦中戦後（1）  |
| 4 アマチュア作家の登場（1）   | 11 「原爆作家」の戦中戦後（2）  |
| 5 アマチュア作家の登場（2）   | 12 プロレタリア作家たちの道（1） |
| 6 板垣直子の批評精神（1）    | 13 プロレタリア作家たちの道（2） |
| 7 板垣直子の批評精神（2）    | 14 プロレタリア作家たちの道（3） |

〔テキスト〕使用せず。

〔参考文献〕授業中にそのつど指示する。

〔授業形態〕講義・発表

〔成績評価の方法〕数回の小レポートを含めた平常点 60 %、期末レポート 40 %

21010

## 日本文学論Ⅱ (古典)

W 田島智子

## ㊦日本文学論Ⅱ

〔授業題目〕 古典文学の読解と鑑賞

〔概要〕 毎回、代表的な作品を取り上げて具体的に分析し、その作品の特色や時代的な位置づけを明らかにしていく。たとえば、『万葉集』であれば、その詠みぶりにどのような傾向がうかがえるかなどを考察していく。

〔到達目標〕 上代(奈良時代)から中古(平安時代)にかけての、主要な文学作品を読解し、その特色を理解する。

〔授業計画〕

- |                              |                                  |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 歴史書『古事記』—『日本書紀』との文学性の違い    | 9 歌物語『伊勢物語』—「昔男」の質的な変遷           |
| 2 上代和歌『万葉集』—訓読の歴史と後世の享受      | 10 作り物語『宇津保物語』—成立の仕方と主題の変遷との関連   |
| 3 上代和歌『万葉集』—第二期柿本人麻呂歌の完成度の分析 | 11 作り物語『宇津保物語』—男性作者ならではの特色       |
| 4 王朝和歌『古今和歌集』—歌の技法(枕詞・序詞)    | 12 日記『蜻蛉日記』—作者の置かれていた状況と日記との対応関係 |
| 5 王朝和歌『古今和歌集』—歌の技法(掛詞・縁語)    | 13 日記『蜻蛉日記』—執筆の方法の分析             |
| 6 漢詩文『和漢朗詠集』—朗詠の歴史の中での位置づけ   | 14 歴史物語『栄花物語』—『大鏡』との比較           |
| 7 漢詩文『和漢朗詠集』—説話・能など後世への影響    | 15 定期試験                          |
| 8 歌物語『伊勢物語』—成立論の解説           |                                  |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、小レポート 50%

21021

## 日本文学史Ⅰ (近現代)

W 坂田達紀

## ㊦日本文学史Ⅰ

〔授業題目〕 近現代日本文学の概観

〔概要〕 明治期以降現代に至るまでの日本文学を概観する。文学潮流の移り変りを大きく捉えるとともに、それぞれの文学流派を代表する作品を、可能な限り多く具体的に確認していきたい。

〔到達目標〕 日本文学についての常識・教養を身につけることに加えて、専門的に文学を学ぶ際のいわば海図となるレベルの知識を得ることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1 近現代文学史の学び方     | 9 転向文学と既成作家   |
| 2 近世以前の文学史の確認(1) | 10 新人と戦時下     |
| 3 近世以前の文学史の確認(2) | 11 新戯作派と既成作家  |
| 4 写実主義と浪漫主義      | 12 戦後派と第三の新人  |
| 5 自然主義と漱石・鷗外     | 13 内向の世代と現代作家 |
| 6 耽美主義と白樺派       | 14 評論・詩歌・劇文学  |
| 7 新思潮派とプロレタリア文学  | 15 まとめ        |
| 8 新感覚派と芸術派       |               |

〔テキスト〕 林和利・小林幸夫編著『整理と鑑賞 精選日本文学史』(桐原書店)

〔参考文献〕 授業中に紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60%、平常の成績 40%

21022

## 日本文学史Ⅱ (古典)

S 源健一郎

## ㊦日本文学史Ⅱ

〔授業題目〕 日本古典文学史

〔概要〕 上代から近世に至る日本古典文学史を概説する。文学史といえば、受験勉強のために丸暗記した諸君も多いと思うが、本講義では、作品理解と史的流れに重点を置いて話をすすめたい。

〔到達目標〕 日本古典文学史の概要を理解するとともに、近代における「文学」概念の成立への見通しをも把握する。

〔授業計画〕

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1 文学史に対する視点      | 9 中世の文学—伝承の文字化—   |
| 2 上代の文学—神話の創造—   | 10 中世の文学—王朝への思慕—  |
| 3 上代の文学—国家の物語—   | 11 中世の文学—文学と芸能—   |
| 4 上代の文学—和歌の創始—   | 12 近世の文学—連歌から俳諧へ— |
| 5 中古の文学—漢詩と和歌—   | 13 近世の文学—芸能世界の展開— |
| 6 中古の文学—後宮の文学—   | 14 近世の文学—近世小説の世界— |
| 7 中古の文学—源氏物語の位置— | 15 近代の文学への展開      |
| 8 中世の文学—転換期と文学—  |                   |

〔テキスト〕 山岸徳平編『作品中心日本文学史』新典社

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、小レポート等の平常点 50%

21023

## 日本文化論

W 南谷美保

## ⑩日本文化論 I

〔授業題目〕「日本文化」を知る

〔概要〕「日本文化」は特殊な文化であるとする考え方は根強く主張され続けているが、この特殊論が成立した背景について、第二次世界大戦後の日本の歴史を振り返りながら考察する。「日本的なものの考え方」とは、どのようなもので、それが現在の私たちにもどのように影響しているのかを知るとともに、異文化理解に必要な文化的感覚を養うものとする。

〔到達目標〕「文化=ものの考え方」であることを理解し、自国の文化および自身のものの考え方を知ることが、異文化理解の基礎であることを理解させる。

〔授業計画〕

- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 1 「日本文化」とは？        | 9 『甘えの構造』を読む             |
| 2 「日本文化特殊論」について    | 10 戦後の日本文化論を概観する         |
| 3 「日本文化」と「日本人」の範囲  | 11 日本文化論=人間関係論？          |
| 4 「単一文化論と日本文化」     | 12 「あなた」と「私」の距離=「自分」とは？  |
| 5 『菊と刀』を読む         | 13 「日本文化」を見る眼            |
| 6 『菊と刀』をどのように読むか   | 14 「日本文化」と「異文化」とを理解するとは？ |
| 7 進化する文化？ 遅れている文化？ | 15 まとめ                   |
| 8 『タテ社会の人間関係』を読む   |                          |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕授業時に指示するが、基本的な文献として青木保『日本文化論の変容』（中公文庫・1999）を読むことが望ましい。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕授業ごとのミニツツペーパー（40%）およびレポート（3回・各20%、合計して60%）による。

21024

## 言語学概論

S 城江良和

## ⑩言語学概論

〔授業題目〕言語のしくみ

〔概要〕ことばというものが、どんなしくみをもっているかを知ってもらうために、いろいろな言語から例を引いて説明します。そのために講義よりも、問題を解いてもらうことを中心にして授業を進めます。

〔到達目標〕音声・語・意味などのレベルにおいて、言語の基本的なしくみと特徴を理解し、日本語の特性を知ること。

〔授業計画〕

- |           |            |              |
|-----------|------------|--------------|
| 1 音声（1）   | 6 語の構造（3）  | 11 意味（2）     |
| 2 音声（2）   | 7 文の作り方（1） | 12 意味（3）     |
| 3 音声（3）   | 8 文の作り方（2） | 13 ことばの歴史（1） |
| 4 語の構造（1） | 9 文の作り方（3） | 14 ことばの歴史（2） |
| 5 語の構造（2） | 10 意味（1）   | 15 定期試験      |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験80%、毎週の小テスト20%

21025

## 日本史 I

S 須原祥二

## ⑩日本史 I

〔授業題目〕日本通史

〔概要〕テキストのI古代～IV近代を補足・発展させる形で講義をすすめる。テキストを所持し、事前に該当範囲を読んでいることを前提に講義を行うので、疑問等を明確にした上で出席してもらいたい。

〔到達目標〕各時代相を掘り下げつつ、日本史の基本的な流れを再確認する。

〔授業計画〕

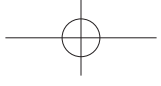
- |              |              |                 |
|--------------|--------------|-----------------|
| 1 古代国家の成立    | 6 中世文化の展開    | 11 政党政治の発展と社会運動 |
| 2 律令国家の形成と展開 | 7 幕藩体制の確立    | 12 アジア太平洋戦争     |
| 3 摂関政治と地方社会  | 8 幕藩体制の動揺と解体 | 13 まとめ1         |
| 4 中世社会の成立と展開 | 9 都市と民衆の文化   | 14 まとめ2         |
| 5 内乱と一揆の時代   | 10 近代国家の成立   | 15 定期試験         |

〔テキスト〕佐々木潤之介ほか『概論日本歴史』（吉川弘文館、2000年）

〔参考文献〕講義中に別途指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験100%



## 21026

### 日本史Ⅱ

S 戸田文明

#### ㊦日本史Ⅱ

〔授業題目〕日本近世史概説

〔概要〕幕藩体制の成立から崩壊までを、基礎的な史料をつかひながら概観する。その際に中心となる論点は、幕藩体制のもっとも基本的な要素である「兵農分離・石高制・鎖国」である。三者の成立・動揺・崩壊の過程を論ずることを通して、幕藩体制成立の論理と崩壊の論理を検討する。

〔到達目標〕日本近世史についての概説的知識を習得する。近世の基礎的な史料の読解力をつける。歴史的なものの見方を身につける。

〔授業計画〕

- |                  |                 |             |
|------------------|-----------------|-------------|
| 1 はじめに（近世史の時代区分） | 6 三都と全国市場（2）    | 12 化成期の政治   |
| 2 戦国大名と一揆勢力      | 7 「文治政治」の意義     | 13 近代への序曲   |
| 3 自治勢力と織豊政権      | 8 財政窮乏と幕政の転換    | 14 列強のアジア進出 |
| 4 幕藩体制の確立        | 9 田沼期の政治と経済     | 15 定期試験     |
| 5 三都と全国市場（1）     | 10 百姓一揆と打ちこわし   |             |
|                  | 11 幕藩体制の動揺と寛政改革 |             |

〔テキスト〕佐々木潤之介他編、『概論 日本歴史』、出版社 吉川弘文館。史料については、プリントを配布する。

〔参考文献〕各種の日本通史。授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、授業中の小テスト 20 %

## 21027

### 日本史Ⅲ

S 須原祥二

#### ㊦日本史Ⅲ

〔授業題目〕古文書からみた古代・中世史

〔概要〕古文書の様式およびその変化を通して、古代・中世の政治と社会の特質を考察する。講義は配布プリントを中心にすすめる。

〔到達目標〕政治システムの特徴が、文書の様式を規定していることを理解する。

〔授業計画〕

- |                 |                |               |
|-----------------|----------------|---------------|
| 1 古文書からみた歴史     | 6 公式様文書から公家様文書 | 11 鎌倉期の武家様文書② |
| 2 律令体制と公式様文書の成立 | 7 公家様文書①       | 12 鎌倉期の武家様文書③ |
| 3 公式様文書①        | 8 公家様文書②       | 13 直状の発達      |
| 4 公式様文書②        | 9 武家様文書の成立     | 14 印判状        |
| 5 公式様文書③        | 10 鎌倉期の武家様文書①  | 15 定期試験       |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕佐藤進一『新版 古文書学入門』（法政大学出版局、1997年）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %

## 21028

### 日本史Ⅳ

W 戸田文明

#### ㊦日本史Ⅳ

〔授業題目〕日本近代史概説

〔概要〕明治期を中心に、基礎的な史料をつかひながら、日本近代史を概観する。近代史の主要テーマである資本主義と民主主義について、日本におけるそれぞれの発展のあり方を、その限界とともに明らかにし、日本近代史の特徴をさぐる。

〔到達目標〕日本近代史の基礎的な知識を習得する。近代の基礎的な史料の読解力をつける。歴史的なものの見方を身につける。

〔授業計画〕

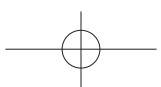
- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 はじめに（日本近代史の時代区分）  | 9 寄生地主制と資本主義       |
| 2 開国の意義             | 10 日清・日露戦争と資本主義の発展 |
| 3 幕藩体制の終焉と明治維新      | 11 政党と官僚           |
| 4 富国強兵政策と文明開化       | 12 第一次世界大戦と独占資本主義  |
| 5 岩倉使節団と初期の外交       | 13 植民地帝国           |
| 6 「開化」政策への抵抗（農民と士族） | 14 まとめ             |
| 7 自由民権運動            | 15 定期試験            |
| 8 明治憲法体制と近代天皇制国家    |                    |

〔テキスト〕佐々木潤之介他編、『概論 日本歴史』、出版社 吉川弘文館。史料については、プリントを配布する。

〔参考文献〕各種の日本史の通史。授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、授業中の小テスト 20 %



21029

## 日本文化史Ⅰ

S 南谷美保

## ⑩日本文化史Ⅰ

〔授業題目〕 仏教の伝来と古代の仏教文化

〔概要〕 古代における仏教の受容と仏教美術について学ぶ。鑑賞の対象は主に仏像になるために、仏像鑑賞の基本についても学ぶ。古代の東アジア情勢も視野に入れ、日本の社会状況の変化が、どのように仏教美術に影響を与えているのかを学ぶ。

〔到達目標〕 古代における仏教受容のあり方と仏教美術の展開について知る。飛鳥・白鳳・天平時代の様式変化、中国文化の流入が与えた影響を学ぶ。

〔授業計画〕

- |              |               |                  |
|--------------|---------------|------------------|
| 1 仏像鑑賞の基本知識① | 7 白鳳時代の仏教美術①  | 13 正倉院と遣唐使①      |
| 2 仏像鑑賞の基本知識② | 8 白鳳時代の仏教美術②  | 14 正倉院と遣唐使②      |
| 3 飛鳥時代       | 9 天平時代①       | 15 唐招提寺の仏像と新しい様式 |
| 4 飛鳥時代の仏教美術① | 10 天平時代②      |                  |
| 5 飛鳥時代の仏教美術② | 11 天平時代の仏教美術① |                  |
| 6 白鳳時代       | 12 天平時代の仏教美術② |                  |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 授業時に、必要に応じて指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 授業ごとのミニッツペーパー（40％）およびレポート（3回・各20％、合計して60％）による。

21030

## 日本文化史Ⅱ

W 南谷美保

## ⑩日本文化史Ⅱ

〔授業題目〕 仏教の日本化と仏教文化

〔概要〕 平安時代初期の中国文化の影響を強く受けていた日本文化が、その後どのように変化を遂げたのかについて学び、いわゆる「国風化」の過程を理解する。さらに、中世文化について、絵画・文学・芸能の各分野について解説するが、特に、宗教と文化との関係、日本文化と中国文化との関係について、重点を置いた講義を行う予定。

〔到達目標〕 古代から中世にかけての日本文化の流れを理解し、特に、中世文化の諸相について知る。

〔授業計画〕

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 1 平安時代以前の日本文化の諸相①   | 9 中世日本文化概説②     |
| 2 平安時代以前の日本文化の諸相②   | 10 中世日本文化概説③    |
| 3 平安時代初期の日本文化と中国文化① | 11 中世日本文化と中国文化① |
| 4 平安時代初期の日本文化と中国文化② | 12 中世日本文化と中国文化② |
| 5 遣唐使の歴史とその廃止をめぐって  | 13 猿楽＝能について①    |
| 6 国風化の時代①           | 14 猿楽＝能について②    |
| 7 国風化の時代②           | 15 猿楽＝能について③    |
| 8 中世日本文化概説①         |                 |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 授業時に、必要に応じて指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 授業ごとのミニッツペーパー（40％）およびレポート（3回・各20％、合計して60％）による。

21042

## 異文化論

S 田川恭識

## ⑩異文化コミュニケーション論

〔授業題目〕 異文化

〔概要〕 文化を異にする者同士が互いに交流を図る際、両者の間で摩擦が生じる場合がある。摩擦の回避の為には、互いの文化に対する知識が必要であると同時に、コミュニケーションに内在する原理や構造についても知ることが重要である。本授業では、言語とコミュニケーションという問題を中心に、応用言語学、社会言語学などの立場から考察を加える。

〔到達目標〕 異文化コミュニケーションについての基礎的な知識を身につけると共に、多文化共生の視点を涵養する。

〔授業計画〕

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 イントロダクション        | 9 コミュニケーションモデル     |
| 2 文化とは何か           | 10 コミュニケーションを支えるもの |
| 3 社会集団と文化          | 11 言葉によるコミュニケーション  |
| 4 文化と価値観           | 12 非言語コミュニケーション    |
| 5 文化の次元—個人主義と集団主義  | 13 異なる文化の捉え方・接し方   |
| 6 文化の次元—権力格差、文化の性差 | 14 カルチャーショックと異文化適応 |
| 7 文化の次元—不確実性の回避    | 15 定期試験            |
| 8 コミュニケーションのメカニズム  |                    |

〔テキスト〕 八代京子他著『異文化トレーニング』（三修社）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験70％、平常点30％



## 21043

### 基礎講読Ⅰ（近現代）

S 高橋美奈子

#### ㊤言語文化基礎演習Ⅰ

〔授業題目〕日本語の諸相

〔概要〕日本語の音声、表記、形態、統語規則性、通時的变化、共時的多様性等について学ぶ。それらの知識を得るに留まらず、具体的な言語現象をデータとし、それを分析する手法についても学ぶ。

〔到達目標〕熟達した日本語の使い手となる上で必要な、日本語についての知識を習得し、また言語現象の分析を通じて、論理的に思考する方法を身に付ける。

〔授業計画〕

1 日本語の音 1	6 日本語の文法 1	11 日本語的な表現 3
2 日本語の音 2	7 日本語の文法 2	12 日本語の多様性 1
3 日本語の形態 1	8 日本語の文法 3	13 日本語の多様性 2
4 日本語の形態 2	9 日本語的な表現 1	14 日本語の多様性 3
5 日本語の表記	10 日本語的な表現 2	15 定期試験

〔テキスト〕庵功雄他『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕定期試験 60%、小テスト・課題等 40%

## 21044

### 基礎講読Ⅱ（近現代文学）

W 坂田達紀

#### ㊤言語文化基礎演習Ⅱ

〔授業題目〕学問研究の意味と方法

〔概要〕テキストを精読することにより、大学での学問研究（とりわけ近現代文学研究）の意味を考える。併せて、参考文献を用いて、その方法について講義する。

〔到達目標〕新書レベルの文献の精確な読解力を身につけるとともに、大学での学問研究の意味と方法とを理解することを目標とする。

〔授業計画〕

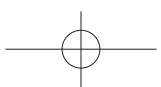
1 はじめに	9 『日本の近代小説』を読む（4）
2 『知の旅への誘い』を読む（1）	10 学問研究の意味と方法（1）
3 『知の旅への誘い』を読む（2）	11 学問研究の意味と方法（2）
4 『知の旅への誘い』を読む（3）	12 学問研究の意味と方法（3）
5 『知の旅への誘い』を読む（4）	13 学問研究の意味と方法（4）
6 『日本の近代小説』を読む（1）	14 学問研究の意味と方法（5）
7 『日本の近代小説』を読む（2）	15 まとめ
8 『日本の近代小説』を読む（3）	

〔テキスト〕中村雄二郎・山口昌男著『知の旅への誘い』・中村光夫著『日本の近代小説』（いずれも岩波新書）

〔参考文献〕清水幾太郎著『論文の書き方』・梅棹忠夫著『知的生産の技術』（いずれも岩波新書）・橋本治著『これで古典がよくわかる』（ちくま文庫）

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60%、平常の成績 40%



21045

## 基礎講読Ⅲ (古典)

S 田島智子

## ㊤言語文化基礎演習Ⅲ

〔授業題目〕古典文学研究入門

〔概要〕「色好み」は単なる漁色ではない。古典の世界では美質と考えられることもある重要な概念である。テキストを読むことによってそれを理解し、同時に作品読解の方法についても学ぶ。

〔到達目標〕古典文学研究の入門書を1冊読み通すことにより、作品読解の方法を知る。

〔授業計画〕

- |   |   |
|---|---|
| 1 テキスト「第一章『色好み』の文化的意味」<br>—『源氏物語玉の小櫛』を中心に解説 | 9 テキスト「第五章 後期・退廃の影」—『狭衣物語』を中心に解説        |
| 2 テキスト「第二章 前期・『色好み』の起原と原型」—『竹取物語』を中心に解説     | 10 テキスト「第五章 後期・退廃の影」—『とりかへばや物語』を中心に解説   |
| 3 テキスト「第二章 前期・『色好み』の起原と原型」—『伊勢物語』を中心に解説     | 11 テキスト「第六章 末期・王朝文化最後の輝き」—『平家物語』を中心に解説  |
| 4 テキスト「第三章 全盛期・王朝美学の理想人物たち」—『源氏物語』を中心に解説    | 12 テキスト「第六章 末期・王朝文化最後の輝き」—『右京大夫集』を中心に解説 |
| 5 テキスト「第三章 全盛期・王朝美学の理想人物たち」—『源氏物語』を中心に解説    | 13 テキスト「第七章 解体期の一・観念への道」—『新古今集』を中心に解説   |
| 6 テキスト「第三章 全盛期・王朝美学の理想人物たち」—『枕草子』を中心に解説     | 14 テキスト「第七章 解体期の一・本能への道」—『とはすがたり』を中心に解説 |
| 7 テキスト「第三章 全盛期・王朝美学の理想人物たち」—『枕草子』を中心に解説     | 15 定期試験                                 |
| 8 テキスト「第四章『色好み』の思想的背景」                      |   |

〔テキスト〕中村真一郎著『色好みの構造—王朝文化の深層—』岩波新書

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50%、小レポート 50%

21046

## 基礎講読Ⅳ (日本文化史)

W 南谷美保

## ㊤言語文化基礎演習Ⅳ

〔授業題目〕『古事記』を読む

〔概要〕日本文化を理解するために必要な「日本的なものの考え方」を知るために、『古事記』の神話を中心に編纂されたテキストを読む。現代社会では理解不可能ともいえる現象の背景に、古代の人々の社会生活、ものの感じ方、考え方が存在したことを理解しつつ、日本文化理解の基礎力を養う。

〔到達目標〕古代の人々の「ものの考え方」を知り、日本文化の理解に必要な神話の世界に関する知識を修得する。

〔授業計画〕

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 『古事記』について・神話とは?  | 9 テキスト第七章と『古事記』     |
| 2 テキスト第一章と『古事記』    | 10 テキスト第八章『古事記』     |
| 3 続き・テキスト第二章と『古事記』 | 11 テキスト第九章と『出雲国風土記』 |
| 4 テキスト第二章と『古事記』    | 12 テキスト第十章と『日本書紀』   |
| 5 テキスト第三章と『古事記』    | 13 テキスト第十一章と『日本書紀』  |
| 6 続き・テキスト第四章と『古事記』 | 14 テキスト第十二章と『日本書紀』  |
| 7 テキスト第五章と『古事記』    | 15 まとめ              |
| 8 テキスト第六章と『古事記』    |                     |

〔テキスト〕阪下圭八著『日本神話入門—『古事記』を読む』(岩波書店・2006)

〔参考文献〕授業時にプリントにて配布するほか、授業内において指示する。

〔授業形態〕講義・発表・講読

〔成績評価の方法〕毎回の授業でミニツツペーパー (40%)・レポート (60%)

21047

## 講読Ⅰ（近現代）

W 高橋美奈子

## ⑩文献講読Ⅴ（日本語学）

〔授業題目〕日本語の文法を考える

〔概要〕母語であるがゆえに、無意識裡に習得し、駆使している日本語の文法について、この授業では、改めて内省し、言語現象を科学的に分析し、論理的に思考しまた表現する方法を身に付けることを目指す。

〔到達目標〕日本語文法研究の現状を知り、文法の分析の方法を身につけ、文法について自律的に考える力を身につける。

〔授業計画〕

1 Introduction	6 名詞修飾	11 「とか」をめぐって
2 「AはBだ」文	7 談話における予測	12 タ形の意味
3 「AはBがC」文	8 「～を+動詞」の文	13 モダリティ
4 尊敬語の文	9 受動文	14 物語内の文法
5 謙譲語の文	10 方向性を持つ述語	15 定期試験

〔テキスト〕天野みどり『学びのエクササイズ日本語文法』ひつじ書房

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕定期試験 60%、発表、課題等平常の成績 40%

21047

## 講読Ⅰ（近現代）

S 早川勝廣

## ⑩文献講読Ⅴ（日本語学）

〔授業題目〕日本語文法の機構

〔概要〕文法とはことばの仕組みである。無意識に習得し、駆使している日本語の文法について、内省し、言語事象を科学的に分析する。言語教育の方向への基本的視座を獲得する。

〔到達目標〕日本語の文法について深く学び、考える。日本語文法研究の現状を知り、文法分析の方法を身につけ、文法について考える力を身につける。

〔授業計画〕

1 品詞 1	6 活用 1	11 人称 1
2 品詞 2	7 活用 2	12 人称 2
3 格助詞 1	8 態（ヴォイス）1	13 時制（テンス）1
4 格助詞 2	9 態（ヴォイス）2	14 時制（テンス）2
5 格助詞 3	10 態（ヴォイス）3	15 定期試験

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中プリント配布

〔授業形態〕講義・実習・双方向授業・ワーク

〔成績評価の方法〕平常点 30%、課題 30%、テスト 40%

21048

## 講読Ⅱ（近現代文学）

W 坂田達紀

## ⑩文献講読Ⅳ（近代文学）

〔授業題目〕私小説の問題を考える

〔概要〕日本の私小説の原点とも言うべき田山花袋の「蒲団」を精読するとともに、小林秀雄の「私小説論」を読み、私小説が抱える問題について分析・考察したい。

〔到達目標〕文学研究の基本となる、作品（テキスト）や文献・資料の精確な読み方を身につけるとともに、私小説についての理解を深めることを目標とする。

〔授業計画〕

1 田山花袋・小林秀雄について	9 小林秀雄「私小説論」を読む（3）
2 田山花袋「蒲団」を読む（1）	10 小林秀雄「私小説論」を読む（4）
3 田山花袋「蒲団」を読む（2）	11 私小説の問題点の考察（1）
4 田山花袋「蒲団」を読む（3）	12 私小説の問題点の考察（2）
5 田山花袋「蒲団」を読む（4）	13 私小説の問題点の考察（3）
6 田山花袋「蒲団」を読む（5）	14 私小説の問題点の考察（4）
7 小林秀雄「私小説論」を読む（1）	15 まとめ
8 小林秀雄「私小説論」を読む（2）	

〔テキスト〕田山花袋著『蒲団・重右衛門の最後』・小林秀雄著『Xへの手紙・私小説論』（いずれも新潮文庫）

〔参考文献〕曾根博義・他編著『大学で読む 現代の文学』（双文社出版）

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60%、平常の成績 40%

21048

## ⑩文献講読Ⅳ（近代文学）

W 池田浩士

〔授業題目〕「翻訳文学」という近代日本文学

〔概要〕明治期以降の日本文学にとって、欧米諸国の文学作品の翻訳移入は、決定的に大きな意味をもっている。その意味を深く考えることは、日本近代文学のより深い理解にとって、不可欠な課題だろう。

〔到達目標〕具体的な文献に即して、翻訳文学が日本近代文学に与えたインパクトを考察することによって、日本文学に対する新たな視点を見出したい。

〔授業計画〕

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1 序論—翻訳文学とは何か？  | 8 ロシア文学の衝撃（3）       |
| 2 翻案から翻訳へ（1）    | 9 フランスという「近代」（1）    |
| 3 翻案から翻訳へ（2）    | 10 フランスという「近代」（2）   |
| 4 初期の翻訳—小説と詩（1） | 11 ナチス・ドイツと天皇制日本（1） |
| 5 初期の翻訳—小説と詩（2） | 12 ナチス・ドイツと天皇制日本（2） |
| 6 ロシア文学の衝撃（1）   | 13 非欧米文学の迫力（1）      |
| 7 ロシア文学の衝撃（2）   | 14 非欧米文学の迫力（2）      |

〔テキスト〕コピーを配布する。

〔参考文献〕授業中にそのつと指示する。

〔授業形態〕講義・発表

〔成績評価の方法〕数回の小レポートを含めた平常点 60 %、期末レポート 40 %

21049

## 講読Ⅲ（古典）

S 南谷美保

## ⑩文献講読Ⅰ（古典文学）

〔授業題目〕古代・中世の女性の生活と結婚

〔概要〕古代・中世における結婚のあり方・結婚生活において女性に期待されたことを中心に、いくつかの文学作品の該当する場面を取り上げて読むことで、古代・中世の女性を取り巻く環境について理解する。基礎的な知識に関する講義も含む。

〔到達目標〕古代・中世文学作品に描かれた女性の生活を読むことで、古代・中世の女性を取り巻く生活環境を理解し、当時の社会の一面を知る。

〔授業計画〕

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 対偶婚から単婚へ（解説）            | 8 女性と財産（解説）               |
| 2 対偶婚の時代：『日本霊異記』に描かれる結婚生活 | 9 女性・妻の財産①：『うつほ物語』ほか      |
| 3 単婚の実態：『栄華物語』ほか          | 10 女性・妻の財産②：『源氏物語』ほか      |
| 4 正妻の立場：『大鏡』ほか            | 11 衣装について（解説）             |
| 5 理想の女性像：『大鏡』ほか           | 12 衣装の管理：『源氏物語』ほか         |
| 6 嫉妬する女性：『今昔物語集』          | 13 縫う女性：『蜻蛉日記』            |
| 7 理想の妻とは：『今昔物語集』          | 14 衣装の意味：『源氏物語』・『十六夜日記』ほか |
|                           | 15 まとめ                    |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕授業時に、必要に応じて指示する。

〔授業形態〕講義・発表・講読

〔成績評価の方法〕授業ごとのミニツツペーパー（40%）およびレポート（2回・各30%、合計して60%）による。

21049

## 講読Ⅲ（古典）

S 源健一郎

## ⑩文献講読Ⅰ（古典文学）

〔授業題目〕『今昔物語集』の読解

〔概要〕院政期に成立した説話集『今昔物語集』から巻第十六を講読する。観音の霊験・奇跡を語る各説話の読解を通じて、古典の時代の人々が抱いた思いを読みとりたい。充実した研究発表と活発な議論を期待する。

〔到達目標〕『今昔物語集』の読解を通じて、院政期に身を置く編者や同時代の人々の世界観を理解する。

〔授業計画〕

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1 中世という時代         | 9 『今昔物語集』巻十六読解（7）   |
| 2 説話とは何か          | 10 『今昔物語集』巻十六読解（8）  |
| 3 『今昔物語集』巻十六読解（1） | 11 『今昔物語集』巻十六読解（9）  |
| 4 『今昔物語集』巻十六読解（2） | 12 『今昔物語集』巻十六読解（10） |
| 5 『今昔物語集』巻十六読解（3） | 13 『今昔物語集』巻十六読解（11） |
| 6 『今昔物語集』巻十六読解（4） | 14 『今昔物語集』巻十六読解（12） |
| 7 『今昔物語集』巻十六読解（5） | 15 『今昔物語集』巻十六読解（13） |
| 8 『今昔物語集』巻十六読解（6） |                     |

〔テキスト〕池上洵一編『今昔物語集』本朝部 上（岩波文庫）

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕発表・双方向授業

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 50 %、研究発表 30 %、質問等の平常点 20 %

21050

講読Ⅳ（日本文化史）

S 戸田文明

⑩文献講読Ⅹ（史学）

〔授業題目〕ヨーロッパの小国と岩倉使節団

〔概要〕 成立後間もない、国家基盤がまだ安定していない段階での、岩倉使節団の派遣は国家的冒険であった。この政治的冒険に近代日本は何を期待したのか、またその成果は如何なるものであったか、を考察することによって、近代日本が直面した課題が明らかになってくる。『米欧回覧実記』を精読することによって、近代日本の直面した課題を明らかにし、その後の日本の発展の方向と限界・可能性を展望する。なお、今回は、『米欧回覧実記』3をテキストに、ベルギー、オランダを中心に検討する。

〔到達目標〕 日本の近代史料を読解する力をつける。『米欧回覧実記』精読を通して、近代日本が直面した課題を明らかにする。

〔授業計画〕

- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| 1 はじめに 岩倉使節団と『米欧回覧実記』 | 9 ロッテルダムと造船  |
| 2 ベルギー 1（製造業 1）       | 10 ライデン      |
| 3 ベルギー 2（製造業 2）       | 11 アムステルダム 1 |
| 4 ベルギー 3（製造業 3）       | 12 アムステルダム 2 |
| 5 ベルギー 4（軍事力）         | 13 アムステルダム 3 |
| 6 オランダ 1（国土建設）        | 14 まとめ       |
| 7 オランダ 2（日本とオランダ）     | 15 定期試験      |
| 8 ハーグ                 |              |

〔テキスト〕 久米邦武編・田中彰校注『米欧回覧実記』3（岩波文庫）岩波書店

〔参考文献〕 田中彰著『「脱亜」の明治維新 岩倉使節団を追う旅から』（NHK ブックス）、田中彰著『岩倉使節団 明治維新の中の米欧』（岩波現代文庫）、西川長夫・松宮秀治編『「米欧回覧実記」を読む 1870年代の世界と日本』（法律文化社）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、授業中の報告 30%

21050

講読Ⅳ（日本文化史）

W 戸田文明

⑩文献講読Ⅹ（史学）

〔授業題目〕新興国プロシア（ドイツ）と岩倉使節団

〔概要〕 成立後間もない、国家基盤がまだ安定していない段階での、岩倉使節団の派遣は国家的冒険であった。この政治的冒険に近代日本は何を期待したのか、またその成果は如何なるものであったか、を考察することによって、近代日本が直面した課題が明らかになってくる。『米欧回覧実記』を精読することによって、近代日本の直面した課題を明らかにし、その後の日本の発展の方向と限界・可能性を展望する。なお、今回は、『米欧回覧実記』3をテキストに、プロシアを中心に検討する。

〔到達目標〕 日本の近代史料を読解する力をつける。『米欧回覧実記』精読を通して、近代日本が直面した課題を明らかにする。

〔授業計画〕

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| 1 はじめに 岩倉使節団と『米欧回覧実記』 | 9 新興国プロシア 2 |
| 2 プロシアの歴史（強国への道） 1    | 10 伯林府ノ記 1  |
| 3 プロシアの歴史（強国への道） 2    | 11 伯林府ノ記 2  |
| 4 ドイツ統一 1             | 12 伯林府ノ記 3  |
| 5 ドイツ統一 2             | 13 伯林府ノ記 4  |
| 6 領邦国家と統一ドイツ 1        | 14 まとめ      |
| 7 領邦国家と統一ドイツ 2        | 15 定期試験     |
| 8 新興国プロシア 1           |             |

〔テキスト〕 久米邦武編・田中彰校注『米欧回覧実記』3（岩波文庫）岩波書店

〔参考文献〕 田中彰著『「脱亜」の明治維新 岩倉使節団を追う旅から』（NHK ブックス）、田中彰著『岩倉使節団 明治維新の中の米欧』（岩波現代文庫）、西川長夫・松宮秀治編『「米欧回覧実記」を読む 1870年代の世界と日本』（法律文化社）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、授業中の報告 30%

21061

講読Ⅴ（漢文）

W 古泉圓順

㊤文献講読Ⅷ（漢文学）

〔授業題目〕『東京夢華録』

〔概要〕 靖康の難によって汴京を逃れ、江南に遷った孟元老が、故郷開封の盛時に想いを馳せて綴ったのが『東京夢華録』である。本書によって北宋時代の都の賑いを知り、また故都の季節の移ろいを探ろう。

〔到達目標〕 秋から冬にかけての、宋都開封の行事を読み、それが我が国に及ぼした状況を検討し、日・中国文化の交流の様子を学びとろう。

〔授業計画〕

- |              |       |            |
|--------------|-------|------------|
| 1 『東京夢華録』略解題 | 6 中元節 | 11 重陽      |
| 2 撰者孟元老      | 7 孟蘭盆 | 12 十月一日、冬至 |
| 3 北宋の首都汴京    | 8 立秋  | 13 十二月     |
| 4 七夕         | 9 秋社  | 14 除夕      |
| 5 乞巧         | 10 中秋 | 15 定期試験    |

〔テキスト〕 孟元老著『東京夢華録』（津逮秘書所収本）。プリントを配布する

〔参考文献〕 入矢義高・梅原郁『東京夢華録』

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %

21061

講読Ⅴ（漢文）

W 道坂昭廣

㊤文献講読Ⅷ（漢文学）

〔授業題目〕 中国古典文を読む

〔概要〕 漢文読解力の養成とともに、テキストを通して、中国の歴史・文学・人物逸話など、中国古典世界について、基礎的な教養を身につけることも、授業の目的のひとつとする。

〔到達目標〕 返り点のついた漢文を読めるようにする。また中国古典世界に対する理解を深める。

〔授業計画〕

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1 『十八史略』 太皇・三皇の部 講読  | 9 『十八史略』 西漢の部 講読 (2)  |
| 2 『十八史略』 五帝・夏の部 講読   | 10 『十八史略』 西漢の部 講読 (3) |
| 3 『十八史略』 殷の部 講読      | 11 『十八史略』 西漢の部 講読 (4) |
| 4 『十八史略』 周の部 講読      | 12 『十八史略』 東漢の部 講読 (1) |
| 5 『十八史略』 春秋戦国の部 講読   | 13 『十八史略』 東漢の部 講読 (2) |
| 6 『十八史略』 春秋戦国の部 講読   | 14 『十八史略』 東漢の部 講読 (3) |
| 7 『十八史略』 秦の部 講読      | 15 定期試験               |
| 8 『十八史略』 西漢の部 講読 (1) |                       |

〔テキスト〕 プリント

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 (40 %) と定期試験 (60 %)

21065

## 古典Ⅰ（日本）

S 田島智子

〔授業題目〕古文解説の方法

〔概要〕教材としては、『枕草子』と『大鏡』を取り上げ、平易で興味深いエピソードを楽しみながら読解力をつける。単語力・文法力・文脈の把握力・王朝の暮らしについての基礎知識などを学んでいく。

〔到達目標〕平安時代の代表的な作品を通して、基本的な古文の読解力と基礎知識を養う。

〔授業計画〕

- |   |   |
|---|---|
| 1 『枕草子』六段「大進生昌が家に」—重要単語を重点的に学習                | 7 『枕草子』二九三段「大納言殿まゐりたまひて」—王朝の暮らしの基礎知識を重点的に学習 |
| 2 『枕草子』二一段「清涼殿の丑寅の隅の」—重要単語を重点的に学習             | 8 『大鏡』師輔伝—簡単な文法を重点的に学習                      |
| 3 『枕草子』一〇二段「二月つごもりごろに」—重要単語を重点的に学習            | 9 『大鏡』伊尹伝—簡単な文法を重点的に学習                      |
| 4 『枕草子』一二九段「故殿の御ために、月ごとの十日」—重要単語を重点的に学習       | 10 『大鏡』兼通伝—簡単な文法を重点的に学習                     |
| 5 『枕草子』一三〇段「頭弁の、職にまゐりたまひて」—王朝の暮らしの基礎知識を重点的に学習 | 11 『大鏡』道隆伝—文脈の把握の仕方を重点的に学習                  |
| 6 『枕草子』一七七段「宮にはじめてまゐりたるころ」—王朝の暮らしの基礎知識を重点的に学習 | 12 『大鏡』道長伝—文脈の把握の仕方を重点的に学習                  |
|   | 13 『大鏡』道長（藤原氏物語）—文脈の把握の仕方を重点的に学習            |
|   | 14 『大鏡』道長（雑々物語）—文脈の把握の仕方を重点的に学習             |
|   | 15 定期試験                                     |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、小テスト 50 %

21065

## 古典Ⅰ（日本）

S / W 源健一郎

〔授業題目〕古典文献解説の基礎

〔概要〕院政期～中世の説話集・軍記物語からいくつかの作品を取りあげる。基本的な文法事項を確認しながら、原文を精確に読み解き、物語に託された古典の時代の人々の思いについて考えたい。

〔到達目標〕大学における古典文学研究に必要とされる基礎的読解力を修得すること。

〔授業計画〕

- |                |                 |                 |
|----------------|-----------------|-----------------|
| 1 授業オリエンテーション  | 6 説話文学作品の読解（4）  | 11 軍記物語作品の読解（2） |
| 2 中世文学概説       | 7 説話文学作品の読解（5）  | 12 軍記物語作品の読解（3） |
| 3 説話文学作品の読解（1） | 8 説話文学作品の読解（6）  | 13 軍記物語作品の読解（4） |
| 4 説話文学作品の読解（2） | 9 説話文学作品の読解（7）  | 14 軍記物語作品の読解（5） |
| 5 説話文学作品の読解（3） | 10 軍記物語作品の読解（1） | 15 軍記物語作品の読解（6） |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・実習

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、発表、小レポート、小テスト等の平常点 50 %

21066

## 古典Ⅱ（日本）

W 田島智子

〔授業題目〕和歌を含む古文の読解の方法

〔概要〕『竹取物語』の和歌が含まれる箇所や、歌物語である『伊勢物語』『大和物語』のストーリーも楽しめる箇所を取り上げて、和歌を理解するための基礎知識と、重要単語・文法・文脈の把握の仕方を学習する。

〔到達目標〕平安時代の代表的な作品を通して、和歌が含まれる古文を読解する力を身につける。

〔授業計画〕

- |                                       |                                       |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 『竹取物語』「安倍の右大臣と火鼠の皮衣」—和歌の基礎知識を重点的に学習 | 点的に学習                                 |
| 2 『竹取物語』「石上の中納言と燕の子安貝」—和歌の基礎知識を重点的に学習 | 9 『大和物語』百四十七段「生田川」—文法を重点的に学習          |
| 3 『伊勢物語』六十三段「つくも髪」—和歌の解釈を重点的に学習       | 10 『大和物語』百四十八段「芦刈」—文法を重点的に学習          |
| 4 『伊勢物語』六十九段「狩の使」—和歌の解釈を重点的に学習        | 11 『大和物語』百五十段「猿沢の池」—文脈の把握の仕方を重点的に学習   |
| 5 『伊勢物語』八十二段「渚の院」—和歌の解釈を重点的に学習        | 12 『大和物語』百五十二段「いはで思ふ」—文脈の把握の仕方を重点的に学習 |
| 6 『伊勢物語』百七段「身を知る雨」—重要単語を重点的に学習        | 13 『大和物語』百五十五段「山の井の水」—文脈の把握の仕方を重点的に学習 |
| 7 『大和物語』百二段「水汲む女」—重要単語を重点的に学習         | 14 『大和物語』百五十六段「姥捨」—文脈の把握の仕方を重点的に学習    |
| 8 『大和物語』百四十六段「鳥飼院」—文法を重               | 15 定期試験                               |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、小テスト 50 %

21066

## 古典Ⅱ（日本）

W 源健一郎

〔授業題目〕古典文献解読の基礎

〔概要〕中世の短編物語であるお伽草子からいくつかの作品を取りあげる。基本的な文法事項を確認しながら、原文を精確に読み解き、物語に託された古典の時代の人々の思いについて考えたい。

〔到達目標〕大学における古典文学研究に必要とされる基礎的読解力を修得すること。

〔授業計画〕

- |                |                 |                |
|----------------|-----------------|----------------|
| 1 授業オリエンテーション  | 6 「浦島太郎」の読解（4）  | 11 「さいき」の読解（1） |
| 2 お伽草子概説       | 7 「一寸法師」の読解（1）  | 12 「さいき」の読解（2） |
| 3 「浦島太郎」の読解（1） | 8 「一寸法師」の読解（2）  | 13 「さいき」の読解（3） |
| 4 「浦島太郎」の読解（2） | 9 「一寸法師」の読解（3）  | 14 「さいき」の読解（4） |
| 5 「浦島太郎」の読解（3） | 10 「一寸法師」の読解（4） |                |

〔テキスト〕藤掛和美編『お伽草子入門』（和泉書院）

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・実習

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、発表、小レポート、小テスト等の平常点 50 %

21067

## 古典Ⅲ (中国)

S 矢羽野隆男

〔授業題目〕漢文基礎 (1)

〔概要〕漢文訓読の基本的な技術・知識の習得を第一目的とする。日本文化とも関わりの深い、比較的読みやすい作品を取り上げ、読解、鑑賞する。筆写・暗誦などの実践を多く取り入れる。

〔到達目標〕漢文訓読に必要な基本的な技術・知識を習得する。漢文分野における一般的な知識を習得する。

〔授業計画〕

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 漢文訓読の歴史と意義             | 9 作品読解：文学① (李白詩：絶句)      |
| 2 訓点基礎                   | 10 作品読解：文学① (杜甫詩：律詩)     |
| 3 注意すべき文字 (返読文字・再読文字・置字) | 11 作品読解：史伝① (『史記』「四面楚歌」) |
| 4 訓読練習：故事成語①「守株」「矛盾」     | 12 作品読解：史伝① (『史記』「烏江」)   |
| 5 訓読練習：故事成語②「渾沌」「朝三暮四」   | 13 作品読解：思想：『韓非子』①「曾子烹彘」  |
| 6 訓読練習：漢詩 (古詩)           | 14 作品読解：思想：『韓非子』②「逆鱗」    |
| 7 訓読練習：『論語』『老子』          | 15 定期試験                  |
| 8 作品読解：文学①屈原「漁父辞」        |                          |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕『漢詩・漢文解釈講座』(昌平社)

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50%、提出物・発表などの平常成績 50%

21067

## 古典Ⅲ (中国)

S 道坂昭廣

〔授業題目〕中国古典詩文について

〔概要〕中国古典詩文について、有名な作品をとりあげ、理解を深める。

〔到達目標〕中国古典文学史の基礎を理解する

〔授業計画〕

- |                |               |               |
|----------------|---------------|---------------|
| 1 中国古典の詩と文 (1) | 6 漢文の詩文 (1)   | 11 南北朝の詩文 (3) |
| 2 中国古典の詩と文 (2) | 7 漢文の詩文 (2)   | 12 駢文について (1) |
| 3 中国古典の詩と文 (3) | 8 三国時代の詩文     | 13 駢文について (2) |
| 4 詩経と楚辞 (1)    | 9 南北朝の詩文 (1)  | 14 近体詩について    |
| 5 詩経と楚辞 (2)    | 10 南北朝の詩文 (2) | 15 定期試験       |

〔テキスト〕井波律子他著『中国の名詩 101』(新書館)

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕平常点 (40%) と定期試験 (60%)

21068

## 古典Ⅳ (中国)

W 矢羽野隆男

〔授業題目〕漢文の語法と読解 (2)

〔概要〕既に古典Ⅲで習得した漢文訓読の技術・知識の基礎の上に、思想・文学・史伝から日本人に知られた作品を選んで読解し鑑賞する。漢文に慣れ親しむため、筆写・暗誦などの実践を取り入れる。

〔到達目標〕よく知られる漢文作品の読解・鑑賞を通じて、日本文化に影響を与えた中国古典全般への理解を深めると同時に、漢文訓読の能力の向上を図る。

〔授業計画〕

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 文学①：李白「静夜思」「峨眉山月歌」 | 9 史伝②：『三国志』「三顧茅廬」      |
| 2 文学②：杜甫「旅夜書懷」「登高」   | 10 史伝③：『三国志』「出師之表」     |
| 3 文学③：白居易「香炉峰下…」など   | 11 思想①：『孟子』「四端説」       |
| 4 文学④：白居易「長恨歌」       | 12 思想②：『荀子』「性悪説」       |
| 5 文学⑤：陶淵明「歸園田居」「飲酒」  | 13 思想③：『韓非子』「直躬」       |
| 6 文学⑥：李白「春夜宴桃李園序」    | 14 思想④：『莊子』「胡蝶之夢」(齊物論) |
| 7 文学⑦：王羲之「蘭亭序」       | 15 定期試験                |
| 8 史伝①：『史記』「伯夷叔齊」     |                        |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕『漢詩・漢文解釈講座』(昌平社)

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50%、提出物・発表などの平常成績 50%

21068

古典Ⅳ（中国）

W 道坂昭廣

〔授業題目〕 中国古典詩文について

〔概要〕 中国古典詩文とその読者について考える。単なる文学史ではなく、文化史の中に中国文学を位置付ける。

〔到達目標〕 中国古典文学史及び文化史について基礎的な理解を深める。

〔授業計画〕

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 中国文学の発生      | 9 楽府             |
| 2 祭祀と文学        | 10 唐の文学と作者と読者（1） |
| 3 農村と文学        | 11 唐の文学と作者と読者（2） |
| 4 漢代の文学と読者（1）  | 12 唐の文学と作者と読者（3） |
| 5 漢代の文学と読者（2）  | 13 宋以降の文学と読者（1）  |
| 6 南北朝の文学と読者（1） | 14 宋以降の文学と読者（2）  |
| 7 南北朝の文学と読者（2） | 15 定期試験          |
| 8 南北朝の文学と読者（3） |                  |

〔テキスト〕 未定

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 平常点（40％）と定期試験（60％）

21069

日本語教育学概論Ⅰ

S 田川恭識

㊦日本語教育学概論Ⅰ

〔授業題目〕 日本語教育学概論Ⅰ

〔概要〕 日本語教育においては、言語学や教育学に止まらず、コミュニケーション学や心理学などの多岐に渡る知識が必要となる。本授業では、日本語教育学を考える上で基礎となる諸領域について日本語教育の視点から概観する。

〔到達目標〕 日本語教育を考える上での基本的な事柄について理解を深める。

〔授業計画〕

- |                   |                     |                |
|-------------------|---------------------|----------------|
| 1 イントロダクション       | 6 学習者の誤用例から見た日本語の文法 | 11 言語の習得（Ⅱ）    |
| 2 日本語の音声・音韻（概観）   | 7 日本語の文法とその指導例      | 12 学習者の心理      |
| 3 日本語の音声・音韻と表記    | 8 言語の対照（Ⅰ）          | 13 情報処理（基本的知識） |
| 4 日本語の音声・音韻とその指導例 | 9 言語の対照（Ⅱ）          | 14 情報処理（実践）    |
| 5 日本語の文法（概観）      | 10 言語の習得（Ⅰ）         | 15 定期試験        |

〔テキスト〕 岡崎敏雄他編著『ケーススタディ日本語教育』（おうふう）

〔参考文献〕 授業中に紹介する。

〔授業形態〕 講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70％、平常点 30％

21070

日本語教育学概論Ⅱ

W 田川恭識

㊦日本語教育学概論Ⅱ

〔授業題目〕 日本語教育学概論Ⅱ

〔概要〕 日本語教育概論Ⅰで習得した知識を前提とし、日本語教育の現場に必要な技術・知識について具体的な例を見ながら理解を深める。

〔到達目標〕 日本語の授業を行う上で必要となる技術・知識について理解する。

〔授業計画〕

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 イントロダクション        | 9 コミュニケーション学と日本語教育 |
| 2 コースデザイン          | 10 コミュニケーション学と教授法  |
| 3 シラバス作成           | 11 日本語教師のための社会知識   |
| 4 言語教授法概観          | 12 授業の分析（Ⅰ）        |
| 5 教授法の実践例          | 13 授業の分析（Ⅱ）        |
| 6 日本語の教材（教科書概観）    | 14 学習者および教師の評価     |
| 7 日本語の教材（その他のリソース） | 15 定期試験            |
| 8 教材作成法            |                    |

〔テキスト〕 岡崎敏雄他編著『ケーススタディ日本語教育』（おうふう）

〔参考文献〕 授業中に紹介する。

〔授業形態〕 講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70％、平常点 30％



21084

書道A

S 庄司克子

㊤書道A

〔概要〕 書道の基本である姿勢・執筆をはじめ、用具・用材（文房四宝）の正しい選び方と、楷書の字形と用筆法の理解、楷書古典の臨書を通して、書の美に対する鑑賞力とその表現力を養う。

〔到達目標〕 楷書体の美しい字形を表現できるようになる。

〔授業計画〕

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 書の基本（姿勢と執筆、用具・用材・用筆法）    | 臨書                         |
| 2 楷書の基本点画                  | 8 楷書の書法Ⅱ（褚遂良の書）『孟法師碑』の臨書   |
| 3 楷書の書法Ⅰ（欧陽詢の書）『九成宮醴泉銘』の臨書 | 9 楷書の書法Ⅱ（褚遂良の書）『孟法師碑』の臨書   |
| 4 楷書の書法Ⅰ（欧陽詢の書）『九成宮醴泉銘』の臨書 | 10 楷書の書法Ⅱ（褚遂良の書）『孟法師碑』の臨書  |
| 5 楷書の書法Ⅰ（欧陽詢の書）『九成宮醴泉銘』の臨書 | 11 楷書の書法Ⅱ（褚遂良の書）『孟法師碑』の臨書  |
| 6 楷書の書法Ⅰ（欧陽詢の書）『九成宮醴泉銘』の臨書 | 12 楷書の書法Ⅲ（顔真卿の書）『建中告身帖』の臨書 |
| 7 楷書の書法Ⅰ（欧陽詢の書）『九成宮醴泉銘』の臨書 | 13 楷書の書法Ⅲ（顔真卿の書）『建中告身帖』の臨書 |
|                            | 14 画仙紙半切への臨書               |

〔テキスト〕 久米東邨著 『書道芸術 漢字編』（中教出版）

〔参考文献〕 『中国法書選』（二玄社）

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 実習 60%、提出物 40%

21084

書道A

S 鈴木崔史

㊤書道A

〔授業科目〕 楷書の書法

〔概要〕 書道の基本である姿勢・執筆法をはじめ、用具・用材の正しい選び方や扱い方を学ぶ。楷書の正しい字形を理解し、基本的な用筆法を習得するとともに、すぐれた古典の事績の臨書を通して、書の美に対する興味と表現力を養う。

〔到達目標〕 楷書の書法的特徴を理解し、用筆法を体得させる。

〔授業計画〕

- |                             |                                     |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| 1 楷書の基本（姿勢と執筆法、用具、用材、用筆法等）  | 8～12楷書の書法②（褚遂良の書）「孟法師碑」の臨書          |
| 2 楷書の基本点画                   | 13～14楷書の書法③（隋以前の書）「張玄墓誌銘」、「張猛龍碑」の臨書 |
| 3～7楷書の書法①（欧陽詢の書）「九成宮醴泉銘」の臨書 |                                     |

〔テキスト〕 久米東邨編 『書道芸術 漢字編（改訂版）』（荳原書房）

〔参考文献〕 『中国法書選』 23張猛龍碑・31九成宮醴泉銘・33孟法師碑（二玄社）

〔授業形態〕 実習が主

〔成績評価の方法〕 実習による提出作品 60%、平常点 40%

21087

書道B

W 庄司克子

㊤書道B

〔概要〕 書聖 王羲之の『蘭亭序』の全臨を中心に行書の基本運筆、字形変化、用筆法を理解、習得し書の美の多様な表現力を養う。

〔到達目標〕 行書体の美しい字形を表現できるようになる。

〔授業計画〕

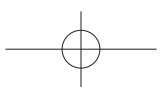
- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 行書の特徴（楷書との相違点や用筆法）    | 8 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書  |
| 2 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書 | 9 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書  |
| 3 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書 | 10 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書 |
| 4 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書 | 11 行書の書法Ⅱ 空海の書『風信帖』の臨書   |
| 5 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書 | 12 行書の書法Ⅱ 空海の書『風信帖』の臨書   |
| 6 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書 | 13 画仙紙 半切への臨書            |
| 7 行書の書法Ⅰ（王羲之の書）『蘭亭序』の臨書 | 14 画仙紙 半切への臨書            |

〔テキスト〕 久米東邨 『書道芸術 漢字編』 中教出版

〔参考文献〕 『中国法書選』 二玄社

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 実習 60%、提出物 40%



21087

書道 B

W 鈴木崔史

㊦書道 B

〔授業題目〕行書の書法

〔概要〕行書の字形、用筆法を理解し習得するとともに、すぐれた古典の書蹟に接して、書の美の表現力を養う。あわせて、書写教育にたずさわる場合に必要な指導上の要点を習得させる。

〔到達目標〕行書の成立過程と書法的特徴を理解させる。書道史上における王羲之の地位や人物、蘭亭序にまつわる伝説について理解させる。顔真卿の「人物と書」との関連を歴史的背景を通して理解させる。

〔授業計画〕

- |                            |                                    |
|----------------------------|------------------------------------|
| 1 行書の特徴（楷書との相違点や用筆法など）     | 10～13行書の書法③（顔真卿の書）祭姪文稿の臨書          |
| 2～7行書の書法①（王羲之の書）「蘭亭序」の臨書   | 14 書写法の要点（字形指導・筆順指導について・字体の許容について） |
| 8～9行書の書法②（王羲之の書）「集字聖教序」の臨書 |                                    |

〔テキスト〕久米東邨編『書道芸術』漢字編（改訂版）（萱原書房）、IBU 書道研究室著『書写指導』

〔参考文献〕『中国法書選』15 蘭亭叙〈五種〉・16 集字聖教序・41 祭姪文稿／祭伯文稿／争坐位文稿（二玄社）

〔授業形態〕実習が主で、書写指導法に関しては講義となる。

〔成績評価の方法〕実習による提出作品 60%、平常点 40%

21088

書道 C

S 庄司克子

㊦書道 C

〔授業題目〕草書とかなの書法

〔概要〕草書とかな（漢字を母体として創られた日本独特の、特に草書と関連の深い文字）の成立と変遷を、古筆の鑑賞と臨書を通して学び、その表現力と鑑賞力を養う。

〔到達目標〕草書体・かなの用筆を習得し短冊、半懐紙へのかな創作。

〔授業計画〕

- |                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 草書の特徴と用筆法              | 9 かなの変遷 成立から平仮名まで             |
| 2 草書の書法 I（王羲之の書）『十七帖』の臨書 | 10 かなの変遷 成立から平仮名まで            |
| 3 草書の書法 I（王羲之の書）『十七帖』の臨書 | 11 かなの書法 I（伝紀貫之の書）『高野切第三種』の臨書 |
| 4 草書の書法 I（王羲之の書）『十七帖』の臨書 | 12 かなの書法 I（伝紀貫之の書）『高野切第三種』の臨書 |
| 5 草書の書法 II（孫過庭の書）『書譜』の臨書 | 13 かなの創作 短冊                   |
| 6 草書の書法 II（孫過庭の書）『書譜』の臨書 | 14 かなの創作 半懐紙                  |
| 7 草書の書法 II（孫過庭の書）『書譜』の臨書 |                               |
| 8 かなの変遷 成立から平仮名まで        |                               |

〔テキスト〕久米東邨『書道芸術 漢字編』中教出版

〔参考文献〕『書道講座』かな 二玄社

〔授業形態〕講義・実習

〔成績評価の方法〕実習 60%、提出物 40%

21088

書道 C

S 鈴木崔史

㊦書道 C

〔授業題目〕草書と仮名の書法

〔概要〕草書の成立過程と変遷について理解する。草書の字形と用筆法を理解し、古典の臨書と鑑賞を通して、その表現力と鑑賞力を養う。仮名の字形と用筆法を理解し、古典の臨書と鑑賞を通して、その表現力と鑑賞力を養う。

〔到達目標〕・草書の特徴を学び、運筆法を習得する。・仮名の線表現とその用筆法を体得させ連綿についても理解させる。

〔授業計画〕

- |             |                |             |
|-------------|----------------|-------------|
| 1 草書の字形と用筆法 | 6 十七帖の臨書       | 11 変体がなを書く  |
| 2 書譜の臨書     | 7 十七帖の臨書       | 12 高野切の臨書   |
| 3 書譜の臨書     | 8 ひらがなの字形と用筆法  | 13 高野切の臨書   |
| 4 書譜の臨書     | 9 ひらがなの単体を書く   | 14 関戸古今集の臨書 |
| 5 書譜の臨書     | 10 変体がなの字形と用筆法 |             |

〔テキスト〕久米東邨編『書道芸術』漢字編（改訂版）（萱原書房）、西川寧編『書道講座④かな』（二玄社）

〔参考文献〕『中国法書選』38 書譜 14 十七帖〈二種〉、『日本名筆選』5 高野切第三種（二玄社）

〔授業形態〕毎回作品を提出、その都度評価する。

〔成績評価の方法〕実習による提出作品 60%、平常点 40%



21089

書道D

W 庄司克子

㊦書道D

〔概要〕 読書の字形と用筆法を理解し、古典の臨書と鑑賞を通して、多様な表現力と鑑賞力を養う。また漢字仮名交じりの書の書制作する過程で、いままでに身につけてきた書法、表現力の開花をねらい、より高い鑑賞力、表現方法への自覚を促す。

〔到達目標〕 自分の心の中にある漢字かな交じりの文を多様な表現方法で作品化する

〔授業計画〕

- |             |  |
|-------------|--|
| 1 隷書の字形と用筆法 | 7 礼器碑の臨書                                   |
| 2 曹全碑の臨書    | 8 礼器碑の臨書                                   |
| 3 曹全碑の臨書    | 9 漢字仮名交じりの書の現代の位置づけ                        |
| 4 曹全碑の臨書    | 10～14小字数による作品創作と多字数の漢字仮名交じりの書の創作、各自の作品の鑑賞会 |
| 5 曹全碑の臨書    |  |
| 6 礼器碑の臨書    |  |

〔テキスト〕 久米東邨編 『書道芸術 漢字編』 中教出版

〔参考文献〕 『中国法書選』 (二玄社)

〔授業形態〕 講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕 実習 60%、提出物 40%

21089

書道D

W 鈴木崔史

㊦書道D

〔授業題目〕 隷書と漢字仮名交じりの書

〔概要〕 隷書の字形と用筆法を理解し、古典の臨書と鑑賞によって、その表現力と鑑賞力を養う。漢字仮名交じりの書の用筆法・構成法を理解し、創作と鑑賞によってその表現力と鑑賞力を養う。

〔到達目標〕 隷書の用筆法、結構法を理解させる。書体の変遷の中における意義、役割を理解させる。各自が選んだことばを意図的に工夫して、作品を作りあげる喜びを体験させる。

〔授業計画〕

- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 1 隷書の字形と用筆法 | 6 礼器碑の臨書              |
| 2 曹全碑の臨書    | 7 史晨碑の臨書              |
| 3 曹全碑の臨書    | 8 漢字仮名交じりの書について       |
| 4 曹全碑の臨書    | 9～11小字数の漢字仮名交じりの書の創作  |
| 5 礼器碑の臨書    | 12～14多字数の漢字仮名交じりの書の創作 |

〔テキスト〕 久米東邨編 『書道芸術』 漢字編 (改訂版) (萱原書房)

〔参考文献〕 『中国法書選』 5 礼器碑 6 史晨前碑・後碑 8 曹全碑 (二玄社)

〔授業形態〕 講義・実習・発表

〔成績評価の方法〕 実習による提出作品 60%、平常点 40%

21502

㊦言語文化論 I

S 城江良和

〔授業題目〕 近代社会のなかの日本語

〔概要〕 近代の日本における言語と社会の関わりについて学びます。I 明治時代以降の国家政策のなかで、日本語がどのように位置付けられてきたか、II 日本語と異文化理解、が主なテーマになります。毎週配布する資料について問題を出し、その解答を提出してもらいます。

〔到達目標〕 明治以降の人々が日本語についてどう考えてきたかを知ること、そして将来の日本語の役割を考えること。

〔授業計画〕

- |              |               |                  |
|--------------|---------------|------------------|
| 1 国語と日本語     | 6 方言と標準語 2    | 11 異文化理解 2       |
| 2 国語教育と日本語教育 | 7 海外の日本語教育 1  | 12 世界の中の日本語の役割 1 |
| 3 日本の言語政策 1  | 8 海外の日本語教育 2  | 13 世界の中の日本語の役割 2 |
| 4 日本の言語政策 2  | 9 日本語と異文化の出会い | 14 言語と社会         |
| 5 方言と標準語 1   | 10 異文化理解 1    | 15 定期試験          |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 毎週提出の解答 (50%)、定期試験 (50%)



## 21504

## ㊤翻訳論

S 神野雅代

〔概要〕 要) 翻訳には社会や文化、制度の知識が必要となる。映画の翻訳についても、実際に映像を見て、なぜこの原文がこのような翻訳になるのかということを考える。翻訳文には様々な表現形式、文体があり、比喩的な解釈をしなければならない場合もある。日本語への翻訳では、和語の活用や形容詞の精彩な訳による豊かな表現を味わう。テキストは、文脈内で意味づけをし適訳する習慣、素養を習得するために読む辞典として通読したい。

〔到達目標〕 翻訳者として文脈内で意味づけをし適訳する習慣、素養を習得する。

〔授業計画〕

- |              |                |                |
|--------------|----------------|----------------|
| 1 通訳と翻訳      | 6～7 直喩の解釈      | 12～13 産業翻訳について |
| 2～3 翻訳の韻律    | 8～9 意味のずれ      | 14 パソコン翻訳について  |
| 4～5 翻訳の文体と訳文 | 10～11 引用句辞典と翻訳 |                |

〔テキスト〕 佐々木健一(監)『レトリック辞典』(大修館) 加島祥造他(著)『翻訳再入門』(南雲堂)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 評価に関しては、授業に対する参加の様態を重視し、毎回の授業の準備、発表、コンスタントな課題提出と各章ごとの小テストの結果との総合評価とするが、授業中、積極的に質疑応答し、討論に参加してはじめて評価される。

## 21527

## ㊤文献研究Ⅰ

W 田島智子

〔授業題目〕 近現代の文章の読解と研究

〔概要〕 要) 授業ごとに特色ある作品を取り上げる。それぞれの作品の特徴を理解し、このような教材を中学・高校の教育現場で扱う際に、どのように指導していくべきか、などを考えていく。

〔到達目標〕 評論、小説、詩歌などの具体的な教材を精密に読解・分析する力を身につけ、教材の種類ごとに異なる指導方法を理解する。

〔授業計画〕

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 評論の教材研究—比較文化論  | 9 小説の教材研究—中島敦    |
| 2 評論の教材研究—古典文芸論  | 10 小説の教材研究—芥川龍之介 |
| 3 評論の教材研究—哲学論    | 11 小説の教材研究—夏目漱石  |
| 4 評論の教材研究—科学論    | 12 詩歌の教材研究—文語自由詩 |
| 5 評論の教材研究—言語論    | 13 詩歌の教材研究—口語自由詩 |
| 6 評論の教材研究—明治期の評論 | 14 詩歌の教材研究—俳句短歌  |
| 7 小説の教材研究—村上春樹   | 15 定期試験          |
| 8 小説の教材研究—梶井基次郎  |                  |

〔テキスト〕 別途指示

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、小テスト 50%

## 21528

## ㊤文献研究Ⅱ

W 谷口政己

〔授業題目〕 古典文学教材読解の技術

〔概要〕 要) 古典文法・古典語彙から古典教養・時代背景に至る諸問題に通ずる読解能力を身につけるために、実践的な課題解決の授業を展開する。教員採用試験の受験に真剣に取り組む諸君の受講を望む。

〔到達目標〕 中学・高校の国語教育において、古文の教材研究に携わる際に必要とされる学問的素養を修得する。

〔授業計画〕

- |              |                  |                  |
|--------------|------------------|------------------|
| 1 はじめに       | 6 上代古典文献の読解 (1)  | 11 中世古典文献の読解 (2) |
| 2 古典語彙の基礎知識  | 7 上代古典文献の読解 (2)  | 12 中世古典文献の読解 (3) |
| 3 古典文法の基礎知識  | 8 中古古典文献の読解 (1)  | 13 近世古典文献の読解 (1) |
| 4 古典教養の基礎知識  | 9 中古古典文献の読解 (2)  | 14 近世古典文献の読解 (2) |
| 5 古典文学史の基礎知識 | 10 中世古典文献の読解 (1) | 15 定期試験          |

〔テキスト〕 講義中適宜指示する。

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、小テスト等の平常点 50%

## 21529

## ㊤文献研究Ⅲ

W 矢羽野隆男

〔授業題目〕漢文の語法と読解

〔概要〕思想・文学・史伝の各分野の代表的な作品を材料に、背景、作者、作品についての基礎的な知識を学び、重要語法を理解し読解力を高める。教員採用試験の対策に役立つように考慮する。

〔到達目標〕詩・議論文・思想・史伝の各分野に関する基礎知識を学び、教員採用試験問題に対応できる語法・読解力の修得を目標とする。

〔授業計画〕

- |           |            |              |
|-----------|------------|--------------|
| 1 詩①（李白）  | 6 散文②（韓愈）  | 11 思想③『韓非子』  |
| 2 詩②（杜甫）  | 7 散文③（柳宗元） | 12 歴史①『史記』   |
| 3 詩③（陶淵明） | 8 散文④（周敦頤） | 13 歴史②『史記』   |
| 4 詩④（白居易） | 9 思想①『論語』  | 14 歴史③『十八史略』 |
| 5 散文①（李白） | 10 思想②『孟子』 | 15 定期試験      |

〔テキスト〕別途指示

〔参考文献〕『新釈漢文大系』（明治書院）

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、平常成績 40 %

## 21530

## ㊤中国文学Ⅰ

S 西村富美子

〔授業題目〕白居易研究

〔概要〕中国唐代の詩人白居易は日本人に最もよく知られている。その作品の中から制作年代の順に代表作を選んで読み進め、白居易の詩の特性について考える。

〔到達目標〕白居易の詩の形式的な面、詩型について理解し、さらにそれぞれの作品に表現された詩人の心情を把握する。

〔授業計画〕

- |                |             |            |
|----------------|-------------|------------|
| 1 唐詩について概説     | 6 胡旋女・牡丹芳   | 11 倣陶潜体詩、他 |
| 2 長恨歌：歴史的背景    | 7 時世粧・李夫人   | 12 感傷詩概説   |
| 3 長恨歌：読解及び解説   | 8 諷諭詩：秦中吟概説 | 13 琵琶行、他   |
| 4 諷諭詩：新樂府五十篇概説 | 9 傷宅・不致仕    | 14 律詩概説    |
| 5 上陽白髮人        | 10 閑適詩概説    | 15 律詩の作品   |

〔テキスト〕授業時に資料を配布

〔参考文献〕『白居易』上・下（岩波書店）、中国の古典『白居易』（角川書店）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕複数回のレポート 50 %、平常点 50 %

## 21531

## ㊤中国文学Ⅱ

W 西村富美子

〔授業題目〕和歌と漢詩の世界

〔概要〕日本の和歌と中国の漢詩について、形式・内容の両面に注目し、その共通点と相違について考えてみたい。『和漢朗詠集』を素材とし、巻下の「雑」の項目を中心に複数の視点から考察する。

〔到達目標〕日本の和歌と漢詩、中国の漢詩についての知識及び作品に表現された作者の心情の相違を考える。更に日本と中国の文学のテーマの相違を理解する。

〔授業計画〕

- |             |         |             |
|-------------|---------|-------------|
| 1 『和漢朗詠集』概説 | 6 管絃付舞妓 | 11 禁中       |
| 2 風・雲       | 7 文詞付漢文 | 12 故京       |
| 3 晴・暁       | 8 酒     | 13 故宮付破宅    |
| 4 松・竹・草     | 9 山・山水  | 14 仙家付道士・隠倫 |
| 5 鶴・猿       | 10 水付漁父 | 15 山家       |

〔テキスト〕授業時に資料を配布

〔参考文献〕『和漢朗詠集』岩波書店（日本古典文学大系）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕複数回のレポート 50 %、平常点 50 %

## 21541

## ㊦海外交流史

W 呂 順長

〔授業題目〕近代日中交流史

〔概要〕明治後期の日本の新聞・雑誌にみる中国関連の論説や記事を通して、明治時代の日本人が近代の中国社会、中国の教育事情などをどう認識していたかを考察する。

〔到達目標〕近代日中文化交流の歴史の概略を把握し、日本人の中国認識を理解する。

〔授業計画〕

- |                     |                             |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 近代日中文化交流史概説 (1)   | 9 沢柳政太郎「対清教育談」(1)           |
| 2 近代日中文化交流史概説 (2)   | 10 沢柳政太郎「対清教育談」(2)          |
| 3 嘉納治五郎「清国巡遊所感」(1)  | 11 松竹田奥「我が観たる清国人」(1)        |
| 4 嘉納治五郎「清国巡遊所感」(2)  | 12 松竹田奥「我が観たる清国人」(2)        |
| 5 高田早苗「支那人教育に就て」(1) | 13 大久保利武「南清に於ける日本人の事業経営」(1) |
| 6 高田早苗「支那人教育に就て」(2) | 14 大久保利武「南清に於ける日本人の事業経営」(2) |
| 7 大隈重信「清国留学生の覚悟」(1) |                             |
| 8 大隈重信「清国留学生の覚悟」(2) |                             |

〔テキスト〕プリント配布

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕レポート70%、平常点30%

## 21542

## ㊦東洋思想研究

S 木村俊彦

〔授業題目〕江戸時代の禅界

〔概要〕江戸時代初期の宗教史文献として典型的な臨濟僧・愚堂和尚の『年譜』と『語録』を、解説しながら読んでいく。『訓読本愚堂録・愚堂年譜』を無料配布し、当時の後水尾上皇や隠元、天海、春日局などの有名人物が登場する文化史料として格好の文献を見る。

〔到達目標〕『愚堂録』を自から読めるようにする。

〔授業計画〕

- |             |           |          |
|-------------|-----------|----------|
| 1 江戸時代初期の禅界 | 6 愚堂年譜講読  | 11 愚堂録講読 |
| 2 愚堂年譜講読    | 7 愚堂年譜講読  | 12 愚堂録講読 |
| 3 愚堂年譜講読    | 8 愚堂年譜講読  | 13 愚堂録講読 |
| 4 愚堂年譜講読    | 9 愚堂年譜講読  | 14 愚堂録講読 |
| 5 愚堂年譜講読    | 10 愚堂年譜講読 | 15 定期試験  |

〔テキスト〕『訓読本愚堂録・愚堂年譜』(配布)

〔参考文献〕木村俊彦著『東洋倫理思想史』(学陽書房)

〔授業形態〕講読

〔成績評価の方法〕定期試験60%、平常点40%

## 21543

## ㊦日本思想研究

S 戸田文明

〔授業題目〕近代日本の思想

〔概要〕開国後、宗教・政治思想・社会思想など、さまざまな外来思想が急速に日本に流入する。日本とは全く違う基盤の上で成長したそれらの思想は、流入後さまざまな変容を受けながら日本社会に影響を与える。外来思想の受容のされ方を通して日本社会の特徴を検討する。

〔到達目標〕近代日本社会の特徴を思想面から理解する。思想史文献の読解力をつける。

〔授業計画〕

- |                 |                 |                 |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 日本近代思想の特徴     | 6 啓蒙思想と文明開化 (2) | 11 民衆の思想的営為 (1) |
| 2 幕末の思想状況 (1)   | 7 啓蒙思想と文明開化 (3) | 12 民衆の思想的営為 (2) |
| 3 幕末の思想状況 (2)   | 8 自由と平等 (1)     | 13 民衆の思想的営為 (3) |
| 4 幕末の思想状況 (3)   | 9 自由と平等 (2)     | 14 まとめ          |
| 5 啓蒙思想と文明開化 (1) | 10 自由と平等 (3)    | 15 定期試験         |

〔テキスト〕鹿野政直、『近代日本思想案内』(岩波書店)。史料については、プリントを配布する。

〔参考文献〕鹿野政直著『近代日本の思想』(岩波新書)。その他、授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験70%、授業中の小論文30%



## 21544

### ㊤日本社会論 I

W 戸田文明

〔授業題目〕 文明開化期の日本

〔概要〕 「明治維新」は、一方で「王政復古」、他方で「文明開化」という矛盾する二つの方向性をもってすすめられた。これらの政策は、矛盾しつつ、時には相補的に、新たな国民統合を模索するものであった。幕末維新期の社会情勢と民衆の態様を考慮しつつ、この二つの方向性を持つ政策を検討する。

〔到達目標〕 日本の近代史に関する基礎的な知識を身につける。近代日本が直面した課題を明らかにする。

〔授業計画〕

- |                |                  |                 |
|----------------|------------------|-----------------|
| 1 はじめに         | 6 蘭学から洋学へ (1)    | 11 啓蒙思想と新政府 (2) |
| 2 「復古」と近代化 (1) | 7 蘭学から洋学へ (2)    | 12 殖産興業政策 (1)   |
| 3 「復古」と近代化 (2) | 8 新たな国民統合の模索 (1) | 13 殖産興業政策 (2)   |
| 4 幕末の民衆 (1)    | 9 新たな国民統合の模索 (2) | 14 次代への展望       |
| 5 幕末の民衆 (2)    | 10 啓蒙思想と新政府 (1)  | 15 定期試験         |

〔テキスト〕 飛鳥井雅道、『文明開化』(岩波新書)、出版社 岩波書店

〔参考文献〕 授業中適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、授業中の小論文 30 %

## 21569

### ㊤言語発達論

S 早川勝廣

〔授業題目〕 子どものことばの豊かさ

〔概要〕 子どもの人間性の育ちに言葉がどう働くかを解明する。子どもの言語事象を具体的に分析する。家庭や保育所におけることば育ての方略を理解する。

〔到達目標〕 人間にとってのことばの力を理解する。ことばが育つプロセスを理解し、ことば習得のメカニズムを分析する力を養う。

〔授業計画〕

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1 子どものことばの現場     | 9 物語体験と物語づくり   |
| 2 人とのかかわりの中でのことば | 10 物語スキーマと知的発達 |
| 3 つぶやきを輝く表現へ     | 11 想像力と表現力     |
| 4 子どものことば獲得      | 12 表現環境と表現意欲   |
| 5 母子関係とコミュニケーション | 13 保育者の人間力     |
| 6 対話ことばをひらく      | 14 人間形成とことば育ち  |
| 7 集団生活と語りことば     | 15 定期試験とまとめ    |
| 8 絵本との出会い        |                |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中にプリント配布

〔授業形態〕 講義・演習・双方向授業・言語事象の分析

〔成績評価の方法〕 平常点 30 %、課題 30 %、テスト 40 %

## 21570

### ㊤社会言語学

W 城江良和

〔授業題目〕 日本の方言

〔概要〕 日本語の方言の分布と歴史、方言に現在起こりつつある変化、共通語と方言など、方言にまつわる諸問題を、「日本語地図」「方言文法全国地図」その他の資料を参照しながら解説する。

〔到達目標〕 日本語の地理的多様性を把握するとともに、自身のふだん使う方言が全国的にどのような位置を占めているかを理解すること。

〔授業計画〕

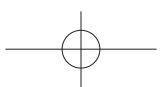
- |               |               |               |   |
|---------------|---------------|---------------|---|
| 1 言語地理学の方法    | 1             | 11 方言文法の地図と解釈 | 1 |
| 2 各地の方言の概要    | 1             | 12 方言文法の地図と解釈 | 2 |
| 3 各地の方言の概要    | 2             | 13 関西方言の現在    | 1 |
| 4 方言の歴史       |               | 14 関西方言の現在    | 2 |
| 5 方言研究の歴史     |               | 15 定期試験       |   |
| 6 方言の語彙と分布と解釈 | 10            |               |   |
|               | 7 方言の語彙と分布と解釈 |               |   |
|               | 8 方言音声の分布と歴史  |               |   |
|               | 9 方言アクセントの分布  |               | 1 |
|               | 10 方言アクセントの分布 |               | 2 |

〔テキスト〕 プリント配布

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %



## 21585

## ㊤日本語教授法Ⅰ

S 高橋美奈子

〔授業題目〕日本語教育の内容と方法Ⅰ

〔概要〕概論の内容を踏まえ、日本語教育における学習者、教育の目標、カリキュラム作成、外国語教授法の特徴等の事柄について、また日本語の音声、文字表記、語彙の特徴とその指導法について学ぶ。

〔到達目標〕学習者に応じた適切なコース・デザイン、カリキュラム設定ができるようにする。音声・文字表記・語彙の指導法を身につける。

〔授業計画〕

1 Introduction	6 教材論 2	11 文字表記の指導 2
2 外国語教授法の変遷	7 音声とその指導 1	12 語彙の指導 1
3 コース・デザイン 1	8 音声とその指導 2	13 語彙の指導 2
4 コース・デザイン 2	9 音声とその指導 3	14 補説
5 教材論 1	10 文字表記の指導 1	15 定期試験

〔テキスト〕プリント、資料を配布する。

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、課題や発表など平常点 40 %

## 21586

## ㊤日本語教授法Ⅱ

W 高橋美奈子

〔授業題目〕日本語教育の内容と方法Ⅱ

〔概要〕Ⅰに引き続き、文法、四技能（話す・聞く・読む・書く）の指導方法について、また評価法についても学ぶ。Ⅰ・Ⅱを併せて学ぶことにより、日本語教授法の一通りの領域をカバーできる。

〔到達目標〕文型による文法指導、授業の組み立て、四技能の指導方法（各種の教室活動を含む）、学習者の評価法を身につける。

〔授業計画〕

1 文法の指導 1	6 聴解の指導 2	11 評価法 1
2 文法の指導 2	7 読解の指導 1	12 評価法 2
3 話すことの指導 1	8 読解の指導 2	13 補説 1
4 話すことの指導 2	9 書くことの指導 1	14 補説 2
5 聴解の指導 1	10 書くことの指導 2	15 定期試験

〔テキスト〕プリント、資料を配布する。

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・双方向授業

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、課題や発表など平常点 40 %

## 21587

## ㊤日本語教育実習指導

S 高橋美奈子

## ㊤日本語教育実習

〔授業題目〕実習指導及び実習

〔概要〕まず教壇実習に必要な事柄を学ぶ。授業研究ののち、教員の指導の下で受講者各自が教案を作成し、模擬授業を行う。その後、具体的な学習者に合わせて授業準備及び実習を行う。

〔到達目標〕文型を教授するための、学習者に必要な内容・活動を備えた、適切な構成の授業を計画し、実行する。また、具体的な学習者に応じた日本語の活動を計画し、実行する。

〔授業計画〕

1 Introduction	6 模擬授業 1	11 実習 2
2 授業研究 1	7 模擬授業 2	12 実習 3
3 授業研究 2	8 模擬授業 3	13 実習 4
4 教案作成 1	9 模擬授業 4	14 補説
5 教案作成 2	10 実習 1	

〔テキスト〕プリント、資料を配布する。

〔参考文献〕適宜紹介する。

〔授業形態〕講義・演習・実習・発表

〔成績評価の方法〕課題、発表、実習など平常の成績 100 %

〔注意〕原則として「日本語教育学概論Ⅰ・Ⅱ」「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」単位修得者に受講を認める。



## 21605

### ㊦書道 E

S 鈴木崔史

〔授業題目〕篆書と篆刻

〔概要〕古代中国（殷～漢）を中心に、漢字の成立・発展過程を篆書を通じて学び、社会背景の変化を考えながら、篆書の書体・書風が変化していくようすを理解する。書の一部門とされる篆刻を、現代の書の中でどのように位置づけるかを考え、篆書以外の文字での制作も試みる。

〔到達目標〕書体の変遷の中で甲骨文字・金文、小篆の位置を理解させ、それぞれの用筆法を体得させる。篆刻の刻法の手順を身につけさせ、刻す楽しさ、使う楽しさを体験させる。

〔授業計画〕

- |                 |             |                |
|-----------------|-------------|----------------|
| 1 現代生活における篆書・篆刻 | 4 金石鐘鼎文字（1） | 8 石鼓文          |
| 2 甲骨文字（1）       | 5 金石鐘鼎文字（2） | 9 泰山刻石         |
| 3 甲骨文字（2）       | 6 金石鐘鼎文字（3） | 10～14 篆刻 実技と鑑賞 |
|                 | 7 金石鐘鼎文字（4） |                |

〔テキスト〕久米東邨編『書道芸術』漢字編（改訂版）（萱原書房）

〔参考文献〕『書道講座』6 篆刻（二玄社）、『中国法書選』1 甲骨文／金文、2 石鼓文・泰山刻石（二玄社）

〔授業形態〕講義・実習

〔成績評価の方法〕実習による提出作品 60 %、平常点 40 %

## 21606

### ㊦書道 F

W 鈴木崔史

〔授業題目〕『書』の創作

〔概要〕書道 E までの学習を基に自己表現としての「書」を創作する。特に現代では漢字かな交じり書が重要視されている。今自分が最も関心を持っている語句や詩を、より効果的に、いかに個性豊かな芸術作品として表現できるかを学習する。

〔到達目標〕臨書を経て様々な創作の過程、方法があることを理解させ、自らにあった方法で個性的な作品制作を体験させる。

〔授業計画〕

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 創作へ向けての準備 意義と目的              | 典の選定、用具・用材・作品形式の決定                     |
| 2 創作の基本とする漢字古典の臨書              | 9 創作②                                  |
| 3 臨書と相互批評                      | 10 創作③と相互批評                            |
| 4 漢字の書の創作① 題材・作品形式の決定、用具・用材の選定 | 11 創作④                                 |
| 5 創作②                          | 12 作品提示と相互批評                           |
| 6 創作③と相互批評                     | 13 かなの書の創作 語句・基調とする古典の選定、用具・用材・作品形式の決定 |
| 7 創作④                          | 14 作品提示と相互批評                           |
| 8 漢字仮名交じり書の創作① 語句・基調とする古典      |  |

〔テキスト〕久米東邨編『書道芸術』漢字編（改訂版）（萱原書房）

〔参考文献〕井島勉著『書の美学と書教育』、平山観月著『書の芸術学』

〔授業形態〕実習を主とし、作品発表・相互批評を行う。

〔成績評価の方法〕実習による提出作品 60 %、平常点 40 %

## 21607

### ㊦書道史 I

S 鈴木崔史

〔授業題目〕中国の書の歴史

〔概要〕文字の起源から時代の変遷とともにいろいろな書体生まれ、書道文化が発展してきた。中国における書の歴史を、古代より順を追って、書体と流行、代表的な能書と書作品に言及しながら、各時代の特色を把握させ、わが国書道文化発展と関連づけて理解させる。

〔到達目標〕中国各時代背景と書体変遷を理解させる。代表的な作品・作者を知り、文字の歴史と書の伝統を理解させる。

〔授業計画〕

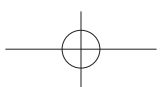
- |                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 1 殷時代—文字の起源・甲骨文     | 8 三国・晋・南北朝時代—造像記・鄭道昭の書    |
| 2 殷時代—殷の青銅器と金文      | 9 隋時代—墓誌銘・智永の書            |
| 3 周時代—周の青銅器と金文      | 10～11 唐時代—初唐の三大家と太宗・顔真卿の書 |
| 4 秦時代—文字の統一・刻石・権量の銘 | 12 宋・元時代—蘇軾・黄庭堅・米芾の書      |
| 5 漢時代—木簡            | 13 明・清時代—文徵明・董其昌・王鐸・呉昌碩の書 |
| 6 漢時代—隸書碑           | 14 近・現代と中国書道史のまとめ         |
| 7 三国・晋・南北朝時代—王羲之の書  | 15 定期試験                   |

〔テキスト〕久米東邨編『書道芸術』漢字編（改訂版）（萱原書房）

〔参考文献〕川谷賢著『書道史大観』（歴史図書社）、藤原鶴来著『和漢書道史』（二玄社）西川昭一編『ヴィジュアル書道芸術全集 1～10』（雄山閣）

〔授業形態〕講義を主とし、年表作りを行なう。

〔成績評価の方法〕平常点 20 %、定期試験 50 %、年表等提出物 30 %



**21608**

**㊤書道史Ⅱ**

W 中川寿郎

〔授業題目〕日本の書の歴史

〔概要〕わが国の書の歴史は、その源を中国から得ている。以後、近代まで「中国風時代」と「日本風時代」に大別し、各時代の代表的な能書と書作品に言及しながら、日本の書の文化の足跡を追求する。

〔到達目標〕日本の書の歴史文化の足跡を追求することにより現代書道文化発展の原点を理解させる。

〔授業計画〕

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1 日本の書の歴史の時代区分と歴史以前の時代 | 9 鎌倉時代（書の硬化）   |
| 2 飛鳥時代（六朝風の流行）         | 10 室町時代（書の衰微）  |
| 3 白鳳時代（初唐風の流行）         | 11 桃山時代（書の復興）  |
| 4 奈良時代（晋唐風の流行）         | 12 江戸時代①（書の普及） |
| 5 平安（弘仁）時代（晋唐風の日本化）    | 13 江戸時代②・幕末の三筆 |
| 6 平安（藤原）時代①（和様の書の完成）   | 14 近代・現代・書と展覧会 |
| 7 平安（藤原）時代②（かなの書の完成）   | 15 定期試験        |
| 8 平安（平源）時代（書の動向の変化）    |                |

〔テキスト〕春名好重他著『書の基本資料』④日本の書の歴史・⑬日本の能書（中教出版）

〔参考文献〕川合賢著『書道史大観』（歴史図書社）藤原鶴来著『和漢書道史』（二玄社）

〔授業形態〕書道史年表作りを主とし講義も含む

〔成績評価の方法〕毎時提出の年表の平均点40%、定期試験20%、平常点40点

**21609**

**㊤書論・鑑賞Ⅰ**

S 中川寿郎

〔授業題目〕書芸術の本質

〔概要〕書は文字を素材として、それを美的に表現する東洋独自の芸術である。古より様々な書論が論じられてきたが、それらの書論を基に、漢字仮名の造形原理を論究し、併せて古今の名跡を鑑賞する。

〔到達目標〕書道教育指導者としての合理的な書理論と豊かな鑑賞力を養いたい。

〔授業計画〕

- |                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 楷書の造形論                 | 9 草書の造形論                      |
| 2 楷書古名跡の鑑賞と臨書（高貞碑を基に）    | 10 草書古名跡の鑑賞と臨書（書譜を基に）         |
| 3 楷書古名跡の鑑賞と臨書（孔子廟堂碑を基に）  | 11 草書古名跡の鑑賞と臨書（十七帖を基に）        |
| 4 楷書古名跡の鑑賞と臨書（顔氏家廟碑を基に）  | 12 篆書・隸書の造形論                  |
| 5 行書の造形論                 | 13 篆書・隸書古名跡の鑑賞と臨書（石鼓文・礼器碑を基に） |
| 6 行書古名跡の鑑賞と臨書（集字聖教序を基に）  | 14 仮名の造形論                     |
| 7 行書古名跡の鑑賞と臨書（黄州寒食詩巻を基に） | 15 定期試験                       |
| 8 行書古名跡の鑑賞と臨書（灌頂記を基に）    |                               |

〔テキスト〕久米東邨著『改訂版 書道芸術漢字編』（中教出版）

〔参考文献〕井島勉著『書の美学と書教育』（墨美社）森郷水著『楷書の造形論』、平山観月著『書の芸術学』（有朋堂）

〔授業形態〕講義・実習・討論

〔成績評価の方法〕実習作品40%、平常点40%、定期試験20%

**21610**

**㊤書論・鑑賞Ⅱ**

W 鈴木崔史

〔授業題目〕書論・鑑賞と文房四宝

〔概要〕古今の代表的な古典を比較鑑賞し、書美を幅広くとらえる鑑賞力と、それを表現できる力を養う。書の美の表現に大きく関る「文房四宝」（筆・墨・紙・硯）の変遷を学び、文房具に関する基礎知識を学ぶことにより豊かな教養を身につける。

〔到達目標〕各古典の用筆法の多様性を理解し、筆法と書風との関連を理解する。・文房具の発達過程、歴史を理解し、性能・機能を理解させ適切に使用する態度を身につけさせる。

〔授業計画〕

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 1 楷書古名跡の鑑賞と臨書「龍門造像記」  | 8 篆書の鑑賞と臨書     |
| 2 楷書古名跡の鑑賞と臨書「鄭道昭の碑」  | 9 文房四宝「墨」について  |
| 3 行書古名跡の鑑賞と臨書「祭姪稿」    | 10 文房四宝「筆」について |
| 4 行書古名跡の鑑賞と臨書「風信帖」    | 11 文房四宝「硯」について |
| 5 草書古名跡の鑑賞と臨書「自叙帖」    | 12 文房四宝「紙」について |
| 6 草書古名跡の鑑賞と臨書「王羲之の尺牘」 | 13 その他の諸文具について |
| 7 隸書の鑑賞と臨書            | 14 その他の諸文具について |

〔テキスト〕久米東邨編『書道芸術』漢字編（改訂版）（萱原書房）

〔参考文献〕井島勉著『書の美学と書教育』（墨美社）、森郷水著『楷書の造形論』（日本教育センター）平山観月著『書の芸術学』（有朋堂）、『別冊 墨 文房四宝』（芸術新聞社）

〔授業形態〕講義及び実習

〔成績評価の方法〕実習による作品提出60%、平常点40%

21622

## ㊤文献講読Ⅱ（古典文学）

W 田島智子

〔授業題目〕『源氏物語』を読む

〔概要〕この授業で取り上げるのは、本編の終りである。栄華を極めた光源氏は、最愛の紫上を喪うなど、失意のうちに人生の終盤を迎える。各グループでテーマを決めて発表する。

〔到達目標〕『源氏物語』を分析することを通して、その文学性を理解する。

〔授業計画〕

- |                            |                                 |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1 発表手順の説明・テーマ設定方法の説明       | 10 発表「夕霧巻」夕霧と落葉宮の恋について          |
| 2 担当の割り当て・テーマ設定            | 11 発表「御法巻」死に近づいてゆく紫上の心境について     |
| 3 調査方法の説明                  | 12 発表「御法巻」光源氏と紫上の最終的な関係性について    |
| 4 発表資料の作成準備                | 13 発表「幻巻」紫上と死別した光源氏の苦悩について      |
| 5 発表資料の作成準備                | 14 発表「幻巻」光源氏が人生の果てにたどりついた心境について |
| 6 発表「横笛巻」夕霧と柏木の友情について      | 15 定期試験                         |
| 7 発表「鈴虫巻」光源氏の女三宮に対する執心について |                                 |
| 8 発表「夕霧巻」夕霧の人物像について        |                                 |
| 9 発表「夕霧巻」夕霧と雲居雁の夫婦関係について   |                                 |

〔テキスト〕阿部秋生他校注『新編日本古典文学全集 源氏物語④』（小学館）

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕発表

〔成績評価の方法〕発表 40 %、定期試験 40 %、平常点 20 %

21627

## ㊤文献講読Ⅶ（漢文学）

S 古泉圓順

〔授業題目〕『開元遺事』

〔概要〕『開元遺事』の撰者、王仁裕。秦州節度判官の仁裕は、唐の滅亡後、蜀に仕えて中書令となった。一日、唐の故都長安に遊び、盛唐時の零れ話を蒐めたのが本書である。読んで長安人の生活を偲ぼう。

〔到達目標〕漢文文献を読み解く技術を会得するには、名文の文学作品よりも、本書の如き短文を、多くこなすことが早道である。本講で漢文を楽しめるように。

〔授業計画〕

- |                 |         |         |
|-----------------|---------|---------|
| 1 『開元天寶遺事』略解題   | 6 賜筋表直  | 12 掃雪迎賓 |
| 2 撰者王仁裕         | 7 截鐙留鞭  | 13 隨蝶所幸 |
| 3 玄宗の治世・開元・天寶時代 | 8 慙顔厚如甲 | 14 伝書鴿  |
| 4 玉有太平字         | 9 七宝山座  | 15 定期試験 |
| 5 歩輦召学士         | 10 癡賢   |         |
|                 | 11 蜂蝶相隨 |         |

〔テキスト〕王仁裕著『開元遺事』（陽山顧氏叢書）。プリントを配布する

〔参考文献〕長澤規矩也『和刻本漢籍隨筆集』6所収『開元天寶遺事』

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %

21651

## ㊤言語文化演習Ⅰ

S 南谷美保

〔授業題目〕日本人の美意識とその変容 1

〔概要〕日本文化の中で、「顔」に対する美意識は、どのように変化してきたのか。時代や社会がこれをどのように規定してきたのかを、文献考証を踏まえて論じたテキストを読むことで、日本文化・日本社会の歴史を知るとともに、「顔」をキーワードとして日本文化の新しい見方を探る。

〔到達目標〕時代とともに変化する「美意識」を探り、日本人の美意識とは、「日本の美」とは何かというテーマについて考え、自分なりの理解を得る。

〔授業計画〕

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 描かれた日本人の顔          | 9 テキスト第二章の内容を絵画資料で確認 |
| 2 テキスト第一章の講読         | 10 テキスト第三章の講読        |
| 3 テキスト第一章の講読         | 11 テキスト第三章の講読        |
| 4 テキスト第一章の講読         | 12 テキスト第三章の講読        |
| 5 テキスト第一章の内容を絵画資料で確認 | 13 参考文献の講読と発表        |
| 6 テキスト第二章の講読         | 14 参考文献の講読と発表        |
| 7 テキスト第二章の講読         | 15 まとめ               |
| 8 テキスト第二章の講読         |                      |

〔テキスト〕村澤博人著『顔の文化誌』（講談社学術文庫・2007）

〔参考文献〕授業時にプリントにて配布するほか、授業内において指示する。

〔授業形態〕講義・発表・講読

〔成績評価の方法〕授業への参加度・発表（40 %）・レポート（60 %）

## 21651

## ㊤言語文化演習 I

S 田島智子

〔授業題目〕平安文学の研究

〔概要〕共通のテーマを元に討論しながら、研究方法を学んでいく。また各人が研究テーマを設定して発表し、質疑応答を通じて、次への研究ステップとする。

〔到達目標〕研究の方法を身につけるとともに、各自の研究テーマについて考察を進める。

〔授業計画〕

- |                       |         |
|-----------------------|---------|
| 1 研究方法の全体的指導          | 9 研究発表  |
| 2 『落窪物語』読解及びその主題の考察   | 10 研究発表 |
| 3 『蜻蛉日記』読解及びその主題の考察   | 11 研究発表 |
| 4 『源氏物語』読解及びその主題の考察   | 12 研究発表 |
| 5 『夜の寝覚』読解及びその主題の考察   | 13 研究発表 |
| 6 『とりかへばや』読解及びその主題の考察 | 14 研究発表 |
| 7 研究発表                | 15 定期試験 |
| 8 研究発表                |         |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕発表

〔成績評価の方法〕発表40%、レポート30%、平常点など30%

## 21651

## ㊤言語文化演習 I

S 坂田達紀

〔授業題目〕田山花袋の作品を読む

〔概要〕日本の自然主義文学の代表的作家である田山花袋の作品を、時間をかけて丹念に読みながら、いわゆる私小説が抱える問題について考察したい。

〔到達目標〕文学研究の基本となる、作品（テキスト）の正確な読み方を身につけるとともに、私小説についての理解を深めることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                  |                   |                   |
|------------------|-------------------|-------------------|
| 1 田山花袋について       | 6 田山花袋の作品を読む (5)  | 11 私小説の問題点の考察 (3) |
| 2 田山花袋の作品を読む (1) | 7 田山花袋の作品を読む (6)  | 12 私小説の問題点の考察 (4) |
| 3 田山花袋の作品を読む (2) | 8 田山花袋の作品を読む (7)  | 13 私小説の問題点の考察 (5) |
| 4 田山花袋の作品を読む (3) | 9 私小説の問題点の考察 (1)  | 14 私小説の問題点の考察 (6) |
| 5 田山花袋の作品を読む (4) | 10 私小説の問題点の考察 (2) | 15 まとめ            |

〔テキスト〕田山花袋著『蒲団・重右衛門の最後』・『田舎教師』（いずれも新潮文庫）

〔参考文献〕授業中に紹介する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート60%、平常の成績40%

## 21651

## ㊤言語文化演習 I

S 戸田文明

〔授業題目〕日本近世・近代史の諸問題

〔概要〕受講者が、あらかじめ各自の決めたテーマに沿って、研究論文を選び報告し、それについて討論する。また、それぞれのテーマに沿った史料の読解をおこなう。これらを通して、卒業論文・研究作成の基礎的な力をつける。

〔到達目標〕論文読解力をつける。史料の読解力をつける。卒業論文・研究作成の基礎的な力をつける。

〔授業計画〕

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1 授業の目的と方法の説明     | 8 研究発表 (5)   |
| 2 報告者の決定と論文・史料の選択 | 9 研究発表 (6)   |
| 3 研究発表 (1)        | 10 研究発表 (7)  |
| 4 研究発表 (2)        | 11 研究発表 (8)  |
| 5 研究発表 (3)        | 12 研究発表 (9)  |
| 6 研究発表 (4)        | 13 研究発表 (10) |
| 7 中間総括            | 14 まとめ       |

〔テキスト〕報告者のレジュメ、史料プリント

〔参考文献〕授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕演習・発表

〔成績評価の方法〕学期末レポート50%、授業中の報告・レポート50%



## 21651

### ㊤言語文化演習 I

S 源健一郎

〔授業題目〕中世日本文学研究の方法

〔概要〕中世文学研究における諸問題について、『平家物語』を中心に、様々な作品に視野を広げつつ、究明してゆきたい。『平家物語』については、平清盛の人物像を中心にとりあげる。

〔到達目標〕中世文学諸分野に対する知識を深めるとともに、基礎的な研究方法を身につける。

〔授業計画〕

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 中世という時代と文学 (1)        | 8 『平家物語』における清盛像の諸問題 (2) |
| 2 中世という時代と文学 (2)        | 9 『平家物語』 卷一読解           |
| 3 軍記物語研究の現況と課題 (1)      | 10 『平家物語』 卷二読解          |
| 4 軍記物語研究の現況と課題 (2)      | 11 『平家物語』 卷三読解          |
| 5 『平家物語』における歴史認識 (1)    | 12 『平家物語』 卷四読解          |
| 6 『平家物語』における歴史認識 (2)    | 13 『平家物語』 卷五読解          |
| 7 『平家物語』における清盛像の諸問題 (1) | 14 『平家物語』 卷六読解          |

〔テキスト〕高橋貞一校注『平家物語』上・下 (講談社文庫)

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 50%、研究発表 30%、質問等の平常点 20%

## 21651

### ㊤言語文化演習 I

S 高橋美奈子

〔授業題目〕現代日本語の研究 3

〔概要〕まず研究方法について、先行研究を題材に、調査方法、データ分析の仕方、考察の進め方、まとめ方を学ぶ。次に受講者各自の選んだテーマについて、データを収集し、分析し、考察をまとめ、発表する。

〔到達目標〕研究テーマについて、多角的に分析し、発表内容についての討論を通じて、研究を深化させる。

〔授業計画〕

- |                 |           |              |
|-----------------|-----------|--------------|
| 1 研究の方法について     | 6 予備調査 2  | 11 考察をまとめる 1 |
| 2 研究の具体例を読み解く 1 | 7 本調査 1   | 12 考察をまとめる 2 |
| 3 研究の具体例を読み解く 2 | 8 本調査 2   | 13 考察をまとめる 3 |
| 4 研究の具体例を読み解く 3 | 9 結果分析 1  | 14 補説        |
| 5 予備調査 1        | 10 結果分析 2 |              |

〔テキスト〕プリント・資料を配布する。

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60%、発表・課題等平常点 40%

## 21652

### ㊤言語文化演習 II

W 南谷美保

〔授業題目〕日本人の美意識とその変容 2

〔概要〕日本文化の中で、「顔」に対する美意識は、どのように変化してきたのか。時代や社会がこれをどのように規定してきたのかを、文献考証を踏まえて論じたテキストを読むことで、日本文化・日本社会の歴史を知るとともに、「顔」をキーワードとして日本文化の新しい見方を探る。

〔到達目標〕時代とともに変化する「美意識」を探り、日本人の美意識とは、「日本の美」とは何かというテーマについて考え、自分なりの理解を得る。

〔授業計画〕

- |              |               |               |
|--------------|---------------|---------------|
| 1 夏休みの課題発表   | 6 参考文献の講読と発表  | 11 テキスト第六章の講読 |
| 2 テキスト第四章の講読 | 7 テキスト第五章の講読  | 12 テキスト第六章の講読 |
| 3 テキスト第四章の講読 | 8 テキスト第五章の講読  | 13 テキスト第六章の講読 |
| 4 テキスト第四章の講読 | 9 テキスト第五章の講読  | 14 参考文献の講読と発表 |
| 5 テキスト第四章の講読 | 10 テキスト第五章の講読 | 15 まとめ        |

〔テキスト〕村澤博人著『顔の文化誌』(講談社学術文庫・2007)

〔参考文献〕授業時にプリントにて配布するほか、授業内において指示する。

〔授業形態〕講義・発表・講読

〔成績評価の方法〕授業への参加度・発表 (40%)・レポート (60%)



## 21652

## ㊤言語文化演習Ⅱ

W 田島智子

〔授業題目〕平安文学の研究

〔概要〕夏学期に引き続いて、共通のテーマを元に討論しながら、研究方法を学んでいく。また各人が研究テーマを設定して発表し、質疑応答を通じて、批判に耐えうる研究内容に深めていく。

〔到達目標〕各自の研究テーマについて、自分なりの独自の見解を見出す。

〔授業計画〕

- |                       |         |
|-----------------------|---------|
| 1 研究方法の全体的指導          | 9 研究発表  |
| 2 『落窪物語』読解及びその主題の考察   | 10 研究発表 |
| 3 『蜻蛉日記』読解及びその主題の考察   | 11 研究発表 |
| 4 『源氏物語』読解及びその主題の考察   | 12 研究発表 |
| 5 『夜の寝覚』読解及びその主題の考察   | 13 研究発表 |
| 6 『とりかへばや』読解及びその主題の考察 | 14 研究発表 |
| 7 研究発表                | 15 定期試験 |
| 8 研究発表                |         |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕発表

〔成績評価の方法〕発表40%、レポート30%、平常点など30%

## 21652

## ㊤言語文化演習Ⅱ

W 坂田達紀

〔授業題目〕小林秀雄「私小説論」を読む

〔概要〕小林秀雄の代表的な評論である「私小説論」を、時間をかけて丹念に読みながら、日本の私小説が抱える問題についてより深く考察したい。

〔到達目標〕評論文の精確な読み方を身につけるとともに、私小説についての理解をより深め、さらに、文学研究の基本的な方法を習得することを目標とする。

〔授業計画〕

- |                |                  |                  |
|----------------|------------------|------------------|
| 1 小林秀雄について     | 6 「私小説論」を読む(5)   | 11 私小説の問題点の考察(3) |
| 2 「私小説論」を読む(1) | 7 「私小説論」を読む(6)   | 12 私小説の問題点の考察(4) |
| 3 「私小説論」を読む(2) | 8 「私小説論」を読む(7)   | 13 私小説の問題点の考察(5) |
| 4 「私小説論」を読む(3) | 9 私小説の問題点の考察(1)  | 14 私小説の問題点の考察(6) |
| 5 「私小説論」を読む(4) | 10 私小説の問題点の考察(2) | 15 まとめ           |

〔テキスト〕小林秀雄著『Xへの手紙・私小説論』(新潮文庫)

〔参考文献〕授業中に紹介する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート60%、平常の成績40%

## 21652

## ㊤言語文化演習Ⅱ

W 戸田文明

〔授業題目〕日本近世・近代史の諸問題

〔概要〕受講者が、あらかじめ各自の決めたテーマに沿って、研究論文を選び報告し、それについて討論する。また、それぞれのテーマに沿った史料の読解をおこなう。これらを通して、卒業論文・研究作成の基礎的な力をつける。

〔到達目標〕論文読解力をつける。史料の読解力をつける。卒業論文・研究作成の基礎的な力をつける。

〔授業計画〕

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| 1 授業の目的と方法の説明     | 8 研究発表(5)   |
| 2 報告者の決定と論文・史料の選択 | 9 研究発表(6)   |
| 3 研究発表(1)         | 10 研究発表(7)  |
| 4 研究発表(2)         | 11 研究発表(8)  |
| 5 研究発表(3)         | 12 研究発表(9)  |
| 6 研究発表(4)         | 13 研究発表(10) |
| 7 中間総括            | 14 まとめ      |

〔テキスト〕報告者のレジュメ、史料プリント

〔参考文献〕授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕演習・発表

〔成績評価の方法〕学期末レポート50%、授業中の報告・レポート50%



## 21652

### ㊤言語文化演習Ⅱ

W 源健一郎

〔授業題目〕中世日本文学の研究

〔概要〕中世文学諸分野の研究課題について、各自が設定した卒業論文（卒業研究）のテーマを視野に入れつつ、検証・考証・研究を進めてゆく。

〔到達目標〕中世文学諸分野に対する知識を深めるとともに、基礎的な研究方法を身につける。

〔授業計画〕

- |                 |                  |                  |
|-----------------|------------------|------------------|
| 1 軍記物語研究の諸課題（1） | 6 説話文学研究の諸課題（3）  | 11 唱導文学研究の諸課題（1） |
| 2 軍記物語研究の諸課題（2） | 7 中世随筆研究の諸課題（1）  | 12 唱導文学研究の諸課題（2） |
| 3 軍記物語研究の諸課題（3） | 8 中世随筆研究の諸課題（2）  | 13 擬古物語研究の諸課題（1） |
| 4 説話文学研究の諸課題（1） | 9 御伽草子研究の諸課題（1）  | 14 擬古物語研究の諸課題（2） |
| 5 説話文学研究の諸課題（2） | 10 御伽草子研究の諸課題（2） |                  |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 50 %、研究発表 30 %、質問等の平常点 20 %

## 21652

### ㊤言語文化演習Ⅱ

W 高橋美奈子

〔授業題目〕現代日本語の研究 4

〔概要〕論文講読を通じて研究の手法や論構成、記述法を学ぶ。また、各人の選んだテーマについての研究を進め、発表する。そこでの質疑応答や討論、他社からの批判を、自分の研究の深化につなげる。

〔到達目標〕研究テーマについて、多角的に分析し、発表内容についての討論を通じて、研究を深化させる。

〔授業計画〕

- |                |              |                |
|----------------|--------------|----------------|
| 1 Introduction | 6 論拠 事実データ 2 | 11 結論提示 1      |
| 2 講読 1         | 7 論拠 文章データ 1 | 12 結論提示 2      |
| 3 講読 2         | 8 論拠 文章データ 2 | 13 テーマに基づく討論 1 |
| 4 講読 3         | 9 論拠 意見 1    | 14 テーマに基づく討論 2 |
| 5 論拠 事実データ 1   | 10 論拠 意見 2   |                |

〔テキスト〕プリント・資料を配布する。

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60 %、発表・課題等平常点 40 %

## 21653

### ㊤言語文化演習Ⅲ

S 南谷美保

〔授業題目〕日本人の美意識とその変容

〔概要〕日本文化の中で、「顔」に対する美意識は、どのように変化してきたのか。時代や社会がこれをどのように規定してきたのかを、文献考証を踏まえて論じたテキストを読むことで、日本文化・日本社会の歴史を知るとともに、「顔」をキーワードとして日本文化の新しい見方を探る。

〔到達目標〕時代とともに変化する「美意識」を探り、日本人の美意識とは、「日本の美」とは何かというテーマについて考え、自分なりの理解を得る。

〔授業計画〕

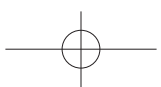
- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 描かれた日本人の顔          | 9 テキスト第二章の内容を絵画資料で確認 |
| 2 テキスト第一章の講読         | 10 テキスト第三章の講読        |
| 3 テキスト第一章の講読         | 11 テキスト第三章の講読        |
| 4 テキスト第一章の講読         | 12 テキスト第三章の講読        |
| 5 テキスト第一章の内容を絵画資料で確認 | 13 参考文献の講読と発表        |
| 6 テキスト第二章の講読         | 14 参考文献の講読と発表        |
| 7 テキスト第二章の講読         | 15 まとめ               |
| 8 テキスト第二章の講読         |                      |

〔テキスト〕村澤博人著『顔の文化誌』（講談社学術文庫・2007）

〔参考文献〕授業時にプリントにて配布するほか、授業内において指示する。

〔授業形態〕講義・発表・講読

〔成績評価の方法〕授業への参加度・発表（40 %）・レポート（60 %）



21653

## ⑩言語文化演習Ⅲ

S 田島智子

〔授業題目〕平安文学の研究

〔概要〕共通のテーマを元に討論しながら、研究方法を学んでいく。また各人が研究テーマを設定して発表し、質疑応答を通じて、自分の研究の不備な点に気付いていく。

〔到達目標〕これまでの研究で不足していたことを補っていく。

〔授業計画〕

- |                       |         |
|-----------------------|---------|
| 1 研究方法の全体的指導          | 9 研究発表  |
| 2 『落窪物語』読解及びその主題の考察   | 10 研究発表 |
| 3 『蜻蛉日記』読解及びその主題の考察   | 11 研究発表 |
| 4 『源氏物語』読解及びその主題の考察   | 12 研究発表 |
| 5 『夜の寝覚』読解及びその主題の考察   | 13 研究発表 |
| 6 『とりかへばや』読解及びその主題の考察 | 14 研究発表 |
| 7 研究発表                | 15 定期試験 |
| 8 研究発表                |         |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕発表

〔成績評価の方法〕発表40%、レポート30%、平常点など30%

21653

## ⑩言語文化演習Ⅲ

S 矢羽野隆男

〔授業題目〕論文合評・報告(1)

〔概要〕論文合評を通じて、研究に必要な知識・方法・執筆技術などを具体的に学ぶ。また、諸分野より課題を設定し、各自が考察結果を報告し、討議する。毎回、漢字試験・暗誦を課す。

〔到達目標〕学術論文の精読・批評を通じて、専門的な知識・技術を修得する。漢字・漢詩文についての基礎的な教養を培う。

〔授業計画〕

- |              |            |            |
|--------------|------------|------------|
| 1 授業説明(資料解説) | 6 論文合評(5)  | 11 課題報告(2) |
| 2 論文合評(1)    | 7 論文合評(6)  | 12 課題報告(3) |
| 3 論文合評(2)    | 8 論文合評(7)  | 13 課題報告(4) |
| 4 論文合評(3)    | 9 論文合評(8)  | 14 課題報告(5) |
| 5 論文合評(4)    | 10 課題報告(1) | 15 定期試験    |

〔テキスト〕適宜資料を配布する。

〔参考文献〕適宜紹介する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕平常点60%、定期試験40%

21653

## ⑩言語文化演習Ⅲ

S 坂田達紀

〔授業題目〕田山花袋の作品を読む

〔概要〕日本の自然主義文学の代表的作家である田山花袋の作品を、時間をかけて丹念に読みながら、いわゆる私小説が抱える問題について考察したい。

〔到達目標〕文学研究の基本となる、作品(テキスト)の精確な読み方を身につけるとともに、私小説についての理解を深めることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                 |                  |                  |
|-----------------|------------------|------------------|
| 1 田山花袋について      | 6 田山花袋の作品を読む(5)  | 11 私小説の問題点の考察(3) |
| 2 田山花袋の作品を読む(1) | 7 田山花袋の作品を読む(6)  | 12 私小説の問題点の考察(4) |
| 3 田山花袋の作品を読む(2) | 8 田山花袋の作品を読む(7)  | 13 私小説の問題点の考察(5) |
| 4 田山花袋の作品を読む(3) | 9 私小説の問題点の考察(1)  | 14 私小説の問題点の考察(6) |
| 5 田山花袋の作品を読む(4) | 10 私小説の問題点の考察(2) | 15 まとめ           |

〔テキスト〕田山花袋著『蒲団・重右衛門の最後』・『田舎教師』(いずれも新潮文庫)

〔参考文献〕授業中に紹介する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート60%、平常の成績40%

**21653****㊤言語文化演習Ⅲ**

S 須原祥二

〔授業題目〕 古代・中世史研究

〔概要〕 テキストの中から各自が関心のある研究論文を選んで報告し、その内容を討議する。

〔到達目標〕 日本史に関する最新の知識および論点について理解を深める。

〔授業計画〕

- |         |        |        |
|---------|--------|--------|
| 1 日程の調整 | 6 報告⑤  | 11 報告⑩ |
| 2 報告①   | 7 報告⑥  | 12 報告⑪ |
| 3 報告②   | 8 報告⑦  | 13 報告⑫ |
| 4 報告③   | 9 報告⑧  | 14 報告⑬ |
| 5 報告④   | 10 報告⑨ |        |

〔テキスト〕 鈴木靖民ほか『日本の時代史』（吉川弘文館）第2巻～第12巻、『日本歴史大系』（山川出版社）、『体系日本史叢書』（山川出版社）、『新体系日本史』（山川出版社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 平常点50%、レポート50%

**21653****㊤言語文化演習Ⅲ**

S 戸田文明

〔授業題目〕 日本近世・近代史の諸問題

〔概要〕 受講者が、あらかじめ各自の決めたテーマに沿って、研究論文を選び報告し、それについて討論する。また、それぞれのテーマに沿った史料の読解をおこなう。これらを通して、卒業論文・研究作成の基礎的な力をつける。

〔到達目標〕 論文読解力をつける。史料の読解力をつける。卒業論文・研究作成の基礎的な力をつける。

〔授業計画〕

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| 1 授業の目的と方法の説明     | 8 研究発表(5)   |
| 2 報告者の決定と論文・史料の選択 | 9 研究発表(6)   |
| 3 研究発表(1)         | 10 研究発表(7)  |
| 4 研究発表(2)         | 11 研究発表(8)  |
| 5 研究発表(3)         | 12 研究発表(9)  |
| 6 研究発表(4)         | 13 研究発表(10) |
| 7 中間総括            | 14 まとめ      |

〔テキスト〕 報告者のレジュメ、史料プリント

〔参考文献〕 授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 学期末レポート50%、授業中の報告・レポート50%

**21653****㊤言語文化演習Ⅲ**

S 源健一郎

〔授業題目〕 中世日本文学研究の実践

〔概要〕 中世文学研究における諸問題について、『平家物語』を中心に、様々な作品に視野を広げつつ、究明してゆきたい。『平家物語』については、平清盛の人物像を中心にとりあげる。

〔到達目標〕 中世文学諸分野に対する知識を深めるとともに、実践的な研究方法を身につける。

〔授業計画〕

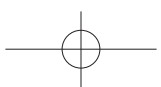
- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 中世という時代と文学(1)        | 8 『平家物語』における清盛像の諸問題(2) |
| 2 中世という時代と文学(2)        | 9 『平家物語』巻一読解           |
| 3 軍記物語研究の現況と課題(1)      | 10 『平家物語』巻二読解          |
| 4 軍記物語研究の現況と課題(2)      | 11 『平家物語』巻三読解          |
| 5 『平家物語』における歴史認識(1)    | 12 『平家物語』巻四読解          |
| 6 『平家物語』における歴史認識(2)    | 13 『平家物語』巻五読解          |
| 7 『平家物語』における清盛像の諸問題(1) | 14 『平家物語』巻六読解          |

〔テキスト〕 高橋貞一校注『平家物語』上・下（講談社文庫）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート50%、研究発表30%、質問等の平常点20%



## 21653

## ㊤言語文化演習Ⅲ

S 高橋美奈子

〔授業題目〕現代日本語の研究5

〔概要〕まず研究方法について、先行研究を題材に、調査方法、データ分析の仕方、考察の進め方、まとめ方を学ぶ。次に受講者各自の選んだテーマについて、データを収集し、分析し、考察をまとめ、発表する。

〔到達目標〕研究テーマについて、多角的に分析し、発表内容についての討論を通じて、研究を深化させる。

〔授業計画〕

1 研究の方法について	6 予備調査2	11 考察をまとめる1
2 研究の具体例を読み解く1	7 本調査1	12 考察をまとめる2
3 研究の具体例を読み解く2	8 本調査2	13 考察をまとめる3
4 研究の具体例を読み解く3	9 結果分析1	14 補説
5 予備調査1	10 結果分析2	

〔テキスト〕プリント・資料を配布する。

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート60%、発表・課題等平常点40%

## 21654

## ㊤言語文化演習Ⅳ

W 南谷美保

〔授業題目〕日本人の美意識とその変容2

〔概要〕日本文化の中で、「顔」に対する美意識は、どのように変化してきたのか。時代や社会がこれをどのように規定してきたのかを、文献考証を踏まえて論じたテキストを読むことで、日本文化・日本社会の歴史を知るとともに、「顔」をキーワードとして日本文化の新しい見方を探る。

〔到達目標〕時代とともに変化する「美意識」を探り、日本人の美意識とは、「日本の美」とは何かというテーマについて考え、自分なりの理解を得る。

〔授業計画〕

1 夏休みの課題発表	6 参考文献の講読と発表	11 テキスト第六章の講読
2 テキスト第四章の講読	7 テキスト第五章の講読	12 テキスト第六章の講読
3 テキスト第四章の講読	8 テキスト第五章の講読	13 テキスト第六章の講読
4 テキスト第四章の講読	9 テキスト第五章の講読	14 参考文献の講読と発表
5 テキスト第四章の講読	10 テキスト第五章の講読	15 まとめ

〔テキスト〕村澤博人著『顔の文化誌』（講談社学術文庫・2007）

〔参考文献〕授業時にプリントにて配布するほか、授業内において指示する。

〔授業形態〕講義・発表・講読

〔成績評価の方法〕授業への参加度・発表（40%）・レポート（60%）

## 21654

## ㊤言語文化演習Ⅳ

W 田島智子

〔授業題目〕平安文学の研究

〔概要〕これまでの研究の集大成を行う。独自性、論構成、表現などに留意しながら、研究を仕上げる。

〔到達目標〕批判に耐えうる研究論文をまとめ上げる。

〔授業計画〕

1 研究方法の全体的指導	9 研究発表
2 『落窪物語』読解及びその主題の考察	10 研究発表
3 『蜻蛉日記』読解及びその主題の考察	11 研究発表
4 『源氏物語』読解及びその主題の考察	12 研究発表
5 『夜の寝覚』読解及びその主題の考察	13 研究発表
6 『とりかへばや』読解及びその主題の考察	14 研究発表
7 研究発表	15 定期試験
8 研究発表	

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕発表

〔成績評価の方法〕発表40%、レポート30%、平常点など30%



## 21654

### ㊤言語文化演習Ⅳ

W 矢羽野隆男

〔授業題目〕 論文合評・報告（2）

〔概要〕 前期に引き続き、論文合評および課題について各自の報告を行う。毎回、漢字・漢詩文についてのテスト・暗誦を課す。

〔到達目標〕 学術論文の精読・批評を通じて、専門的な知識・技術を修得する。又、漢字・漢詩文についての基礎的な教養を培う。

〔授業計画〕

1 授業説明（資料解説）	6 論文合評（5）	11 課題報告（2）
2 論文合評（1）	7 論文合評（6）	12 課題報告（3）
3 論文合評（2）	8 論文合評（7）	13 課題報告（4）
4 論文合評（3）	9 論文合評（8）	14 課題報告（5）
5 論文合評（4）	10 課題報告（1）	15 定期試験

〔テキスト〕 適宜資料配布する。

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 60 %、定期試験 40 %

## 21654

### ㊤言語文化演習Ⅳ

W 坂田達紀

〔授業題目〕 小林秀雄「私小説論」を読む

〔概要〕 小林秀雄の代表的な評論である「私小説論」を、時間をかけて丹念に読みながら、日本の私小説が抱える問題についてより深く考察したい。

〔到達目標〕 評論文の精確な読み方を身につけるとともに、私小説についての理解をより深め、さらに、文学研究の基本的な方法を習得することを目標とする。

〔授業計画〕

1 小林秀雄について	6 「私小説論」を読む（5）	11 私小説の問題点の考察（3）
2 「私小説論」を読む（1）	7 「私小説論」を読む（6）	12 私小説の問題点の考察（4）
3 「私小説論」を読む（2）	8 「私小説論」を読む（7）	13 私小説の問題点の考察（5）
4 「私小説論」を読む（3）	9 私小説の問題点の考察（1）	14 私小説の問題点の考察（6）
5 「私小説論」を読む（4）	10 私小説の問題点の考察（2）	15 まとめ

〔テキスト〕 小林秀雄著『Xへの手紙・私小説論』（新潮文庫）

〔参考文献〕 授業中に紹介する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60 %、平常の成績 40 %

## 21654

### ㊤言語文化演習Ⅳ

W 須原祥二

〔授業題目〕 古代・中世史研究

〔概要〕 テキストの中から各自が関心のある研究論文を選んで報告し、その内容を討議する。

〔到達目標〕 日本史に関する最新の知識および論点について理解を深める。

〔授業計画〕

1 日程の調整	6 報告⑤	11 報告⑩
2 報告①	7 報告⑥	12 報告⑪
3 報告②	8 報告⑦	13 報告⑫
4 報告③	9 報告⑧	14 報告⑬
5 報告④	10 報告⑨	

〔テキスト〕 鈴木靖民ほか『日本の時代史』（吉川弘文館）第2巻～第12巻、『日本歴史大系』（山川出版社）、『体系日本史叢書』（山川出版社）、『新体系日本史』（山川出版社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 平常点 50 %、レポート 50 %



## 21654

## ⑩言語文化演習Ⅳ

W 戸田文明

〔授業題目〕日本近世・近代史の諸問題

〔概要〕受講者が、あらかじめ各自の決めたテーマに沿って、研究論文を選び報告し、それについて討論する。また、それぞれのテーマに沿った史料の読解をおこなう。これらを通して、卒業論文・研究作成の基礎的な力をつける。

〔到達目標〕論文読解力をつける。史料の読解力をつける。卒業論文・研究作成の基礎的な力をつける。

〔授業計画〕

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1 授業の目的と方法の説明     | 8 研究発表 (5)   |
| 2 報告者の決定と論文・史料の選択 | 9 研究発表 (6)   |
| 3 研究発表 (1)        | 10 研究発表 (7)  |
| 4 研究発表 (2)        | 11 研究発表 (8)  |
| 5 研究発表 (3)        | 12 研究発表 (9)  |
| 6 研究発表 (4)        | 13 研究発表 (10) |
| 7 中間総括            | 14 まとめ       |

〔テキスト〕報告者のレジュメ、史料プリント

〔参考文献〕授業中に適宜紹介する。

〔授業形態〕演習・発表

〔成績評価の方法〕学期末レポート 50 %、授業中の報告・レポート 50 %

## 21654

## ⑩言語文化演習Ⅳ

W 源健一郎

〔授業題目〕中世日本文学の研究

〔概要〕中世文学諸分野の研究課題について、各自が設定した卒業論文（卒業研究）のテーマを視野に入れつつ、検証・考証・研究を進めてゆく。

〔到達目標〕中世文学諸分野に対する知識を深めるとともに、実践的な研究方法を身につける。

〔授業計画〕

- |                  |                   |                   |
|------------------|-------------------|-------------------|
| 1 軍記物語研究の諸課題 (1) | 6 説話文学研究の諸課題 (3)  | 11 唱導文学研究の諸課題 (1) |
| 2 軍記物語研究の諸課題 (2) | 7 中世随筆研究の諸課題 (1)  | 12 唱導文学研究の諸課題 (2) |
| 3 軍記物語研究の諸課題 (3) | 8 中世随筆研究の諸課題 (2)  | 13 擬古物語研究の諸課題 (1) |
| 4 説話文学研究の諸課題 (1) | 9 御伽草子研究の諸課題 (1)  | 14 擬古物語研究の諸課題 (2) |
| 5 説話文学研究の諸課題 (2) | 10 御伽草子研究の諸課題 (2) |                   |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 50 %、研究発表 30 %、質問等の平常点 20 %

## 21654

## ⑩言語文化演習Ⅳ

W 高橋美奈子

〔授業題目〕現代日本語の研究 6

〔概要〕論文講読を通じて研究の手法や論構成、記述法を学ぶ。また、各人の選んだテーマについての研究を進め、発表する。そこでの質疑応答や討論、他社からの批判を、自分の研究の深化につなげる。

〔到達目標〕研究テーマについて、多角的に分析し、発表内容についての討論を通じて、研究を深化させる。

〔授業計画〕

- |                |              |                |
|----------------|--------------|----------------|
| 1 Introduction | 6 論拠 事実データ 2 | 11 結論提示 1      |
| 2 講読 1         | 7 論拠 文章データ 1 | 12 結論提示 2      |
| 3 講読 2         | 8 論拠 文章データ 2 | 13 テーマに基づく討論 1 |
| 4 講読 3         | 9 論拠 意見 1    | 14 テーマに基づく討論 2 |
| 5 論拠 事実データ 1   | 10 論拠 意見 2   |                |

〔テキスト〕プリント・資料を配布する。

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60 %、発表・課題等平常点 40 %

## 21670

## ⑩日本文化特殊講義 江戸時代漢詩文文学 I S 道坂昭廣

〔授業題目〕江戸時代の紀行漢詩文を読む

〔概要〕明治時代まで、漢詩文は日本人の重要な表現手段のひとつであった。本講では、日本人の手になる漢詩文のなかから、特に名勝を詠んだ詩文をとりあげ、その特色について考える。

〔到達目標〕日本文学史における漢詩文について理解を深める。

〔授業計画〕

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 日本における漢詩文の受容 (1) | 9 〃 (2)            |
| 2 〃 (2)            | 10 〃 (3)           |
| 3 日本における漢詩文の作成 (1) | 11 名勝を詠う漢詩文選読 (1)  |
| 4 〃 (2)            | 12 〃 (2)           |
| 5 江戸以前の漢詩文 (1)     | 13 江戸の漢詩壇と名勝詩文 (1) |
| 6 〃 (2)            | 14 〃 (2)           |
| 7 〃 (3)            | 15 定期試験            |
| 8 江戸の漢詩文 (1)       |                    |

〔テキスト〕プリント

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕平常点 (40%)、定期試験 (60%)

## 21681

## ⑩日本文化特殊講義 関西文化論 S 由比邦子

〔授業題目〕上方芝居にみる他者へのまなざし

〔概要〕大阪生まれの人形浄瑠璃は情愛の表現を最も大切にす。本講義では、人形浄瑠璃の代表作品の分析により、作者と鑑賞者が、登場人物すなわち他者を通して自己を見つめるさまを読み解く。

〔到達目標〕江戸時代の情愛の描写に対して現代の私たちも十分共感できることを確認し、関西人特有の他者への関心の示し方を理解する。

〔授業計画〕

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 江戸時代の背景            | 8 一人の男をめぐる女同士の義理立て (1) |
| 2 上方と江戸              | 9 一人の男をめぐる女同士の義理立て (2) |
| 3 遊里と芝居              | 10 ふがいない男の右往左往         |
| 4 人形浄瑠璃の誕生           | 11 子供を思う親の慈愛 (1)       |
| 5 世話物と時代物            | 12 子供を思う親の慈愛 (2)       |
| 6 愛する男に対する女の思いやり (1) | 13 親を気遣う子供の孝行心         |
| 7 愛する男に対する女の思いやり (2) | 14 関西人が共感する情とは         |

〔テキスト〕講義時にプリントを適宜配布する。

〔参考文献〕講義中適宜紹介する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕期末レポート 60%、中間レポート 30%、平常点 10%

## 21682

## ⑩日本文化特殊講義 日中翻訳の理論と実践 W 矢羽野隆男

〔授業題目〕ビジネスシーンを中心にした翻訳

〔概要〕高度な日本語運用能力をもつ留学生を対象に、中国語と日本語との性質の違いに留意し、日常生活やビジネスにおけるいろいろな場面での会話を取り上げ、できるだけ自然な中文和訳ができるように練習する。毎回、作文の課題を課し、添削を行う。

〔到達目標〕生硬な翻訳ではなく、日常よく用いられる表現を自然に運用できる能力を目指す。

〔授業計画〕

- |          |        |         |
|----------|--------|---------|
| 1 自己紹介   | 6 工場見学 | 12 ローン  |
| 2 入国手続き  | 7 商談   | 13 手紙   |
| 3 日程調整   | 9 契約   | 14 病院   |
| 4 電話連絡   | 10 支払い | 15 定期試験 |
| 5 歓迎会の挨拶 | 11 保険  |         |

〔テキスト〕資料を適宜配布する。

〔参考文献〕大内田三郎『実用ビジネス中国語会話』(駿河台出版社)

〔授業形態〕双方向授業

〔成績評価の方法〕平常点 60%、定期試験 40%

## 21683

### ㊤ 日本文化特殊講義 説話絵巻の諸問題 S 南谷恵敬

〔授業題目〕 説話絵巻の諸問題

〔概要〕 日本の絵巻物のジャンルにおいて、大きな位置を占めるものに説話絵巻がある。これらは、民間に流布する伝承や宗教的奇譚などを題材として絵にあらわされたものである。本講義では、代表的遺品における説話（テキスト）と絵の関連を考察する。

〔到達目標〕 まず、絵巻に親しむこと。説話や物語がどのように絵画化されていくのか、その表現の工夫をつかみとる。

〔授業計画〕

- |                 |               |               |
|-----------------|---------------|---------------|
| 1 絵巻物の成立と大和絵    | 6 信貴山縁起絵巻の場合③ | 12 伴大納言絵巻の場合④ |
| 2 説話とはなにか…説話集概観 | 7 信貴山縁起絵巻の場合④ | 13 その他の説話絵巻①  |
| 3 説話絵巻とは        | 8 中間まとめ       | 14 その他の説話絵巻②  |
| 4 信貴山縁起絵巻の場合①   | 9 伴大納言絵巻の場合①  | 15 まとめ        |
| 5 信貴山縁起絵巻の場合②   | 10 伴大納言絵巻の場合② |               |
|                 | 11 伴大納言絵巻の場合③ |               |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 筆記試験・レポート 80%、平常点 20%